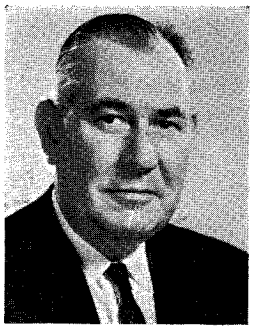
聖徒の道 1969年4月20日発行 昭和42年12月18日第三種郵便物認可

特集

教会の基いとなつている信条

聖徒の道

1969 4



心の糧

十二使徒評議員会補助
ジョン ロングデン

現在，教会全体の支部，ワード部，ステーキ部，伝道部で指導者および奉仕する者として召されている人々の数は，老若合わせてほぼ数十万に達するであろう。この両方のグループの人々には，地上に素晴らしい霊の安らぎをもたらすという重大な務めがある。主は予言者ジョセフ・スミスを通して言われた。

「汝ら備えをなせ，まさに来るべき事のために備えをなせ，そは主の来るは近ければなり。」(教義と聖約1：12)

聖句は，我々がいつも義しい生活をするように数々の警告を与えている。

「見よ，而して天より遣わされた者の言うが如き声を聴け。こは勢い強く，力も強く世の隅々までも達するものにして，誠にその声は人々に聞ゆなり。曰く，汝ら主の道を備え，その道を直くせよ，と。」(教義と聖約65：1)

道を備えるためには，義しい生活をする勇気と霊的な力が必要であると世に知らせることこそ，我々のメッセージなのである。この世を離れていても，あるいはまた主の再臨まで地上に留まっていようとも，我々は主に会う備えができる。

イエスの譬話や古代，近代の聖典の中にも，自ら備え他に備えをさせよとの警告の言葉が満ちあふれている。

我々が絶えず備えをなし，この世における使命をわきまえるよう祈ってやまない。

もくじ

予言者のことば
我が主，救い主……大管長 デビド O. マッケイ…… 209
誰が賢い妻を見つけることができるか……ラリー H. ピア…… 211
日曜学校
自分で考えさせなさい……リン スタダード…… 213
教会の基となっている信条
宇宙の主 イエス・キリスト……マリオン G. ロムニー…… 216
あなたがたは聖書を知らないから思い違いをしている
……マリオン D. ハンクス…… 221
あなたがたのうち知恵に不足している者があれば
……ブルース R. マツコンキー…… 226
信 仰……ボイド K. パッカー…… 230
ディルバート・レスティフ・レー
悔い改め……セオドア A. タトル…… 234
バプテスマ……ポール H. ダン…… 238
聖霊の賜……S. デルワース ヤング…… 242
系 図
世界系図記録大会……ダグラス D. パーマー…… 247
伝道部長会メッセージ…… 249
ローカル・ニュース…… 250
めつたに考えない律法……リチャード L. エバンズ……裏表紙

子供のページ

じゅうじかのはりつけ……ドロシー O. バーカー……57
イースターの野うさぎを作りましよう……ロバート L. フェアロール……61
スーザンのおどろき……ルーシー・パール……62

今月の表紙

予言者ジョセフ・スミスに与えられたモルモン経の金版を翻訳する仕事は，非常な集中力と霊的な力を必要とするものでした。

ディル・キルバーン画伯による表紙の油絵は金版の文字を入念に調べている若い予言者の姿です。

今月の特集記事「教会の基となっている信条」のうち本文221ページの「あなたがたは聖書を知らないから思い違いをしている」マリオン D、ハンクスの記事を参照して下さい。

我が主 救い主

大管長　デビド　O. マッケイ

私たちの長兄であるイエス・キリストがベツレヘムでお生まれになった時の様子が次のようにのべられている。「するとたちまち，おびただしい天の軍勢が現れ，……神をさんびして言った，『いと高きところでは，神に栄光があるように，地の上では，み心にかなう人々に平和があるように』」（ルカ　2：13～14）

復活祭が近づいているので，三つの原則について考えてみよう。これらは主の降誕の際に宣べられ，主のこの世における使命を明らかにしたものである。すなわち第一に神に対する敬虔の念，第二に平安，第三にすべての人に善意，言いかえると敬神，幸福，兄弟愛である。

第一の原則，敬神については，イエスが地上におられた時にいつも模範をお示しになった。ヨルダン川のほとりで，主は伝道に先だって，バプテスマを受けたいとバプテスマのヨハネに次のように申し出られた。「今は受けさせてもらいたい。このように，すべての正しいことを成就するのは，われわれにふさわしいことである」（マタイ 3：15）

地上の権力とこの世の富とを見せられサタンの誘惑と対決なさった山上で，主は威厳をもって言われた。「サタンよ退け。『主なるあなたの神を拝し，ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」

使徒たちを選ばれる前に，主は天父に導きを求めて，夜通

し祈りを捧げられた。主は，弟子たちに祈ることを教えられた時，「御名があがめられますように」（マタイ　6：9）と祈りの最初に敬神の言葉をお入れになった。

五千人にパンをお与えになった奇蹟の後で，主は一人静かに祈りを捧げられた。次の日カペナウムで主がお悲しみになっている様子がうかがわれる。それは群集が神の栄光に気づかずに，パンを食して，空腹を満たすことだけで終ってしまったからである。

最後の晩餐の席で主は使徒たちに言われた。「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，またあなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ　17：3）

ゲッセマネの園においてイエスは次のように祈られた。「父よ，……わたしの思いではなく，みこころが成るようにしてください」（ルカ　22：42）また復活の後に「わたしにさわってはいけない。わたしは，まだ父のみもとに上っていないのだから。……わたしの父またあなたがたの父であって，わたしの神またあなたがたの神であられるかた……」（ヨハネ　20：17）と注意をしておられる。

第二の原則である平安は，幸福，人間の自然の状態，人間の第一の祝福などと定義されている。それなしに幸福はあり得ないのである。予言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。「幸福は我々の存在の目的であり，もし我々が幸福にいたる道を進むならば，ついにはそれを得るのである。この道とは高徳，正直，誠実，清らかさ，神のすべての誡命を守ることなのである。」（教会歴史記録第5巻P．134．）

イエスは山上の垂訓の中で言われている。「平和をつくり出す人たちは，さいわいである，彼らは神の子と呼ばれるであろう。」（マタイ　5：9）

平和の基として，主はすべての人の権利をお認めになった。「あなたはどう思われますか答えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか，いけないでしょうか」と尋ねられた時に，主はお答えになった。「『税に納める貨幣を見せなさい』。彼らはデナリ一つを持ってきた。そこでイエスは言われた，『これは，だれの肖像，だれの記号か』。彼らは『カイザルのです』と答えた。するとイエスは言われた，『それでは，カイザルのものはカイザルに，神のものは神に返しなさい』。」（マタイ　22：17～21）

主は，この世の生涯の終り近くなった頃，弟子たちに言われた。「これらのことをあなたがたに話したのは，わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは，この世ではなやみがある。しかし，勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。（ヨハネ　16：33）

また同じ頃に，主は次のようにおっしゃった。「わたしは平安をあなたがたに残して行く，わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ　14：27）

主の全生涯を通じて，主の唇にも，心にも平安があった。主が墓からよみがえり，弟子たちに御姿を現わされた時，最初に言われた言葉が，「安かれ」（ヨハネ 20：19）であった。

救い主が教えられたのは，個人の悩み，家族の争い，国民の艱難を免がれることからもたらされる平安である。このような平安は，個人に対すると全く同じく社会全体に影響を及ぼすものである。キリストのささやきと良心の命令に従わない者に，平安はない。人が良心にさからって，正義の律法にそむく時，肉欲にふけり，肉体の誘惑に負ける時，またその仲間との交わりにおいて，彼らを裏切り，正義の律法を犯す時，平安はあろうはずがない。

第三の原則，善意もまた兄弟愛という言葉で言い表わすことができる。

イエスは選ばれたイスラエル家の民に特にメッセージをお与えになったけれども，主は人種差別をされることも，人をかたよりみたもうこともなかった。カナンの女が娘の祝福を乞い願って，信仰をもって主のもとに来た時，主は答えて言われた。「女よ，あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように。」（マタイ　15：28）

主はベテスダの池で，病苦に悩んでいる人々を癒され，罪を犯した婦人に，さあ行ってもう二度と罪を犯さないようにと命じられた。

主は貧しい人々，悩む人々に対すると同様に金持ちの人々にも兄弟愛をお示しになった。

金持ちではあるが軽べつされていた取税人ザアカイに向って主は言われた。「ザアカイよ，急いで下りてきなさい。きょう，あなたの家に泊ることにしているから」。ザアカイはよろこんで主を迎え入れた。彼はそれまで兄弟愛を受ける望みさえ抱いたことがなかったので，非常に感激して言った。「主よ，わたしは誓って，自分の財産の半分を貧民に施します。また，もしだれかから不正な取立てをしていましたら，それを四倍にして返します」福音の「みたま」が彼の内に宿ったのをごらんになって，イエスは答えられた。「きょう，救いがこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから」（ルカ　19：5，8～9）

このお方こそ，我々の生活の中心となる我が主，救い主なのである。

イエスは律法学者たちを説き負かせ，薬でなおらない病人を癒され，また，霊感をお与えになって，最も偉大な音楽や数多い書物を書かせられ，全世界に宣教師をお遣しになった。

ふつうの人々が成功を勝ち得るいかなる領域においても，歴史家がキリストについて言及したことはなかった。しかし，人格の領域においては，主は比類なき存在であった。

イエス・キリストは，我が救い主，天父との仲保者である。使徒ペテロは次のように説いている。「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，天下のだれにも与えられていないからである」。

誰が賢い妻を見つけることができるか

ラリー H. ピア

最近，私の大学の学生と20世紀の文学に描かれている女性について話し合う機会があったのですが，そこで私は次のことに気づきました。それは現在のこの「ゆがめられた時代」といわれる中で，多くの若者たちは女性の理想像というものに対して非常な関心を抱いているにもかかわらず，実際「美徳」とはどういうものなのかその定義を根本的に理解していないということです。このような問題は程度の差はあれ，これまでも多くの世代にみられてきました。しかしこの「美徳」の定義に関する論争は各世代ごとにくり返し吟味される必要があります。特にこれは学生時代の非常に大きな論争点であるように思われるのです。

自分たちの読んだ文学の中の女主人公を取りあげて美徳の定義を話し合っていくうちに，一人の学生が，これはいくら話し合っても結論のでる問題ではないことを述べ，また旧約聖書の中の「箴言」の作者は，「誰が賢い妻を見つけることができるか」という，今日非常に大きな意味を持つ問題を投げかけていることを話してくれました。

女性の理想像は永遠かつ不変である

旧約聖書，箴言の31章に目をとめて下さい。そこには女性の美徳として欠くことのできない性質，条件が記されています。

「誰が賢い妻を見つけることができるか。彼女は宝石よりもすぐれて尊い。」

「その夫の心は彼女を信頼して，収益に欠けることはない。」

「彼女は生きながらえている間，その夫のために良いことをして，悪いことをしない。」

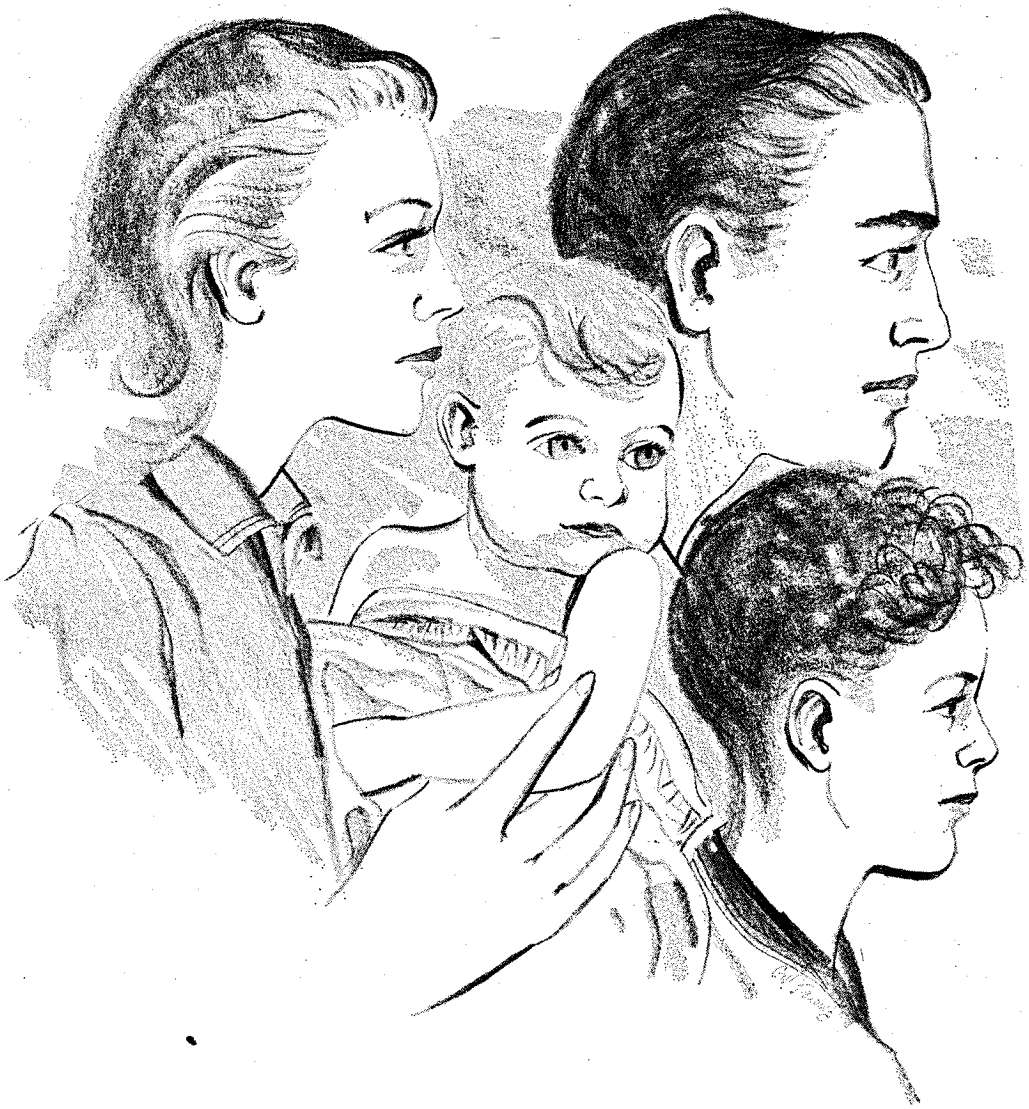
「彼女は羊の毛や亜麻を求めて，手ずから望みのように，それを仕上げる。」

「また商人の舟のように，遠い国から食糧を運んでくる。」

「彼女はまだ夜の明けぬうちに起きて，その家の者の食べ物を備えその女たちに日用の分を与える。」

「彼女は畑をよく考えてそれを買い，その手の働きの実をもってぶどう畑をつくり，力を持って腰に帯し，その腕を強くする。

「彼女はその商品のもうけのあるのを知っている，そのともしびは終夜消えることがない。」



「彼女は手を糸取り棒にのべ，その手に，つむを持ち，手を貧しいものに開き，乏しい人に手をさしのべる。」

「彼女はその家の者のために雪を恐れない。その家の者はみな紅の着物を着ているからである。」

「彼女は自分のために美しい，しとねを作り亜麻布と紫布とをもってその着物とする。」

「その夫はその地の長老たちと共に町の門に座するので，人に知られている。」

「彼女は亜麻布の着物をつくって，それを売り，帯を作って商人に渡す。」

「力と気品とは彼女の着物である。そして後の日を笑っている。」（後の日に喜びを得る。欽定訳聖書より）

「彼女は口を開いて知恵を語る，その舌にはいつくしみの教えがある。」

「彼女は家の事をよくかえりみ，怠りのかてを食べることをしない。」

「その子らは立ち上がって彼女を祝し，その夫もまた彼女をほめ

たたえていう。」

「りっぱに事をなし遂げる女は多いけれども，あなたはそのすべてにまさっている」と。

「あでやかさは偽りであり，美しさはつかのまである，しかし主を恐れる女はほめたたえられる。」

「その手の働きの実を彼女に与え，その行いのために彼女を町の門でほめたたえよ。」（箴言31：10～31）

近代の予言者たちは，この箴言の聖句の真実性を証明し，また女性の理想像というものは，他のすべての福音の原則と同様，永遠かつ不変であることを説いています。

箴言31章の10～31節までの聖句は非常によくできた一篇の詩を成しており，その中には，徳という主題の展開とともに，その時代のイスラエル人の生活や主婦として妻に負わされていた責任などがよく描かれており，それに非常な興味をおぼえます。また人々は箴言の著者が自分の書いた事柄にそった生活，いわば「信仰を実践した生活」を送ったであろうことと，彼の書いた箴言は今日我々の教会にある数多くのテキストと同じ役割を果すものであると考えるかもしれません。彼はイスラエル人の伝統的な社会の風俗と平凡な生活の様子を，ことわざ形式に言わすことによって読者との接触を深めようとしたのです。20世紀文学を愛読する者にとって，箴言31章の中の誰れにでも通じる詩は非常に貴重であり価値あるものです。それは古代イスラエルの時代においても同様，今日でも反ばくすることの出来ない真理を示しているからです。「誰が賢い妻を見つけることができるか」という質問に対し，聖書はこう答えています。すなわち「彼女は宝石よりもすぐれて尊い」。（ここでいう宝石とは一般にいわれている財産，宝などをさす）

また「その夫の心は彼女を信頼して……」（箴言31章10～11節）という聖句は，祝福を受けるに価する女性は誠実な心の持ち主であることをはっきり示しているのです。

マッケイ大管長はこれまで幾度かくり返しこういわれてきました。「外面を飾りたてることは外面崇拝者の目を楽しませることはできるが，それ以上のものではない。しかし，真の女性らしい心と純潔という装飾は生涯を通じて真の男性の心を呼び覚すものである。そしていつの日かそれは，あらゆる人々を義しきに導くことであろう」

徳のある女性は信頼のおける人です。また彼女の夫は「彼女は生きながらえている間その夫のために良い事をして，悪いことをしない」（箴言31：12）ことを知っているのです。

善を為す者

徳のある女性の最大の特性の一つは「善を為す者」であることです。この事に関しては旧約，新約両聖書の中に同じ見解を見い出すことができます。箴言の前の方の章を読んでみると善を為す行為はいつの場合も必ず柔和な心でされねばならないことがわかるでしょう。また決して陰口をいったり，人のうわさをしたりすることのない徳高い女性の例も見られます。（箴言25：23～24，参照）この柔和な心は，現代の聖典にも多くの個所に主題とされています。

教義と聖約の中で予言者ジョセフ・スミスの妻エマ・スミスに与えられた戒めはこうでした。「汝の有つ天職の任めは，汝の夫なる我が僕ジョセフ・スミス（二代目）を苦難の時に慰めの言葉を以て優しき心にていたわるためにあり」。（教義と聖約25：5）

箴言の著者が徳高い女性となるためにもう一つ大切なことをあげています。それは「器用」であること。これは昔も今もたいしたかわりはなく，針仕事，料理，ちょっとした修繕これらの事が出来ることです。もちろん今日では他にアイロンかけ，編物，献立表作りなども加わってきます、……。

しかし箴言の著者は「器用である」だけでは不充分であって，それらの仕事を「手ずから望みの様に……」（箴言31：13）やらなくてはいけないといっているのです。そうするならば家庭の中で自分は非常に大切な役を果していることに大きな喜びを感じることでしょう。古代イスラエルにおいて，糸つむぎは非常に大切な仕事でしたし，誠心誠意でやらなければなりませんでした。我々のこの技術の進歩した時代ではちょっと理解しにくいことかもしれません。しかし，末日において我々が飢きんや災難に出会った場合家族の者に生活必需品をもたらすために必ずや女性の力（器用さ）が必要とされる日が来るに違いありません。

彼女は宝石よりもすぐれて尊い

今日，女らしさという概念はまったく失われてしまったのではありません。初めより今日に至るまですべての予言者を通して与えられた永遠の律法とはまったくかけ離れたものの中に織り込まれてしまっているのです。女性の美徳についてもそうです。「美徳」はいつの場合でも，聖典とつながりを持っていなければなりません。徳のある女性として大切な事柄は聖書の中に何度もくり返して述べられています。ここにその中の特に大切な三つの事をあげてみましょう。

まず第一に，美徳は人のうわさ話をしたり口やかましくいうことを許しません。徳のある女性は「口を開いて知恵を語り，その舌にはいつくしみの教がある」のです。（箴言31：26）

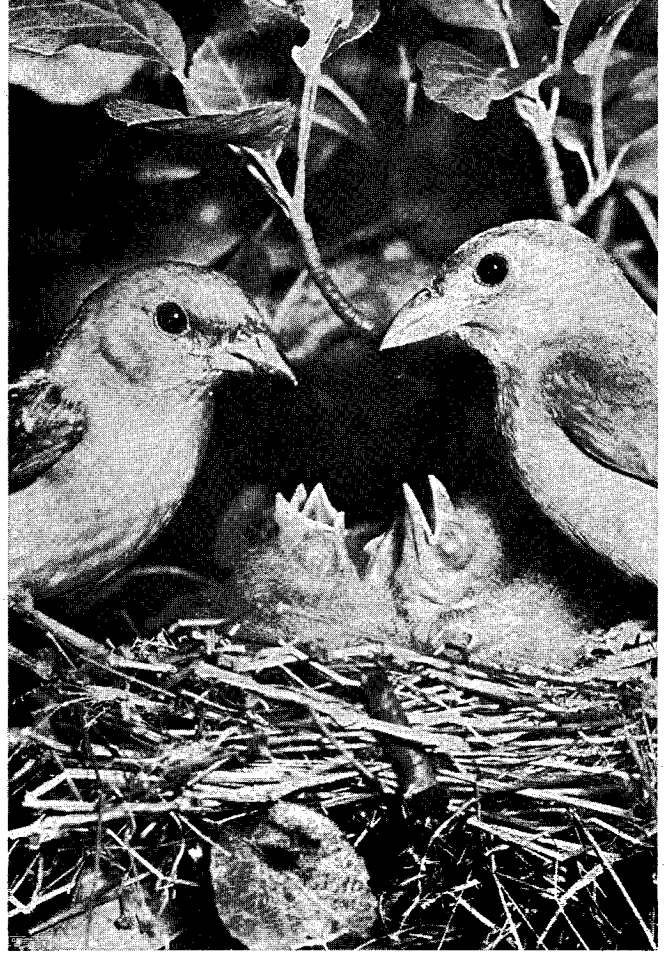
第二に，美徳とは汚れのない神聖な身体を意味するのです。マッケイ大管長はこれまでに幾度となくくり返してこういわれました。「貞節は美しい女性の冠である。」

第三に，美徳は怠情を許しません。「彼女はその商品のもうけのあるのを知っている。そのともしびは終夜消えることがない」また「彼女は，家の事をよくかえりみ，怠りのかてを食べることをしない」（箴言31：18，27）

「徳のある，美しい，人々に尊敬される」女性でありたいと願う人はみな，これらの聖句をよく考えてみるに違いありません。そして徳のある女性とは信頼される人であり，善を為し，家庭の仕事を進んでやり，精神的にも肉体的にも清潔な人であることがわかるでしょう。美徳のある女性は自分の美や魅力ばかりに気をとられずに，その目を常に主に向けているのです。ここで述べられている多くの美徳は正しい結婚生活を営む上で大きな助けとなることを主ははっきりと示しておられます。ここでいう正しい結婚生活とは夫婦が「一体」となり，神殿で交わした「生めよ，ふえよ，地に満ちよ地を従わせよ」の聖約に忠実であるような生活を意味しているのです。このようにして，徳のある女性はこの世で妻として，母としての務めを終えたあと再び主の前にかえり，家族と共に永遠の生活に入るのです。

箴言は，女性が正しい理解力を持ち，経験豊かな人間となるために自己鍛錬をするようにと強調しています。そして彼女たちが自己鍛錬に励む時，箴言の聖句は非常に大きな助けとなることは明らかです。

「誰が賢い妻を見つけることができるか。彼女は宝石よりもすぐれて尊い」そして，昇栄という報いを受けるのです。



日曜学校

ひな鳥には，巣を離れて，飛ぶ練習をしなければならない時が来ます。お父さん鳥とお母さん鳥は元気づけたり，模範を示したりすることはできますが，翼を強くして，飛べるように努力するのはひな鳥自身です。

神の子供たちにも同じことが言えます。自分は自分自身で築かなければなりません。人は自分に責任をもつようにと，自由意志を与えられました。（モーセ４：３参照）福音を学び，福音に従って生活するためにどれ程努力をするかは神の子供たち各々に責任があります。

自分で考えさせなさい

リン　スタダード

手伝いすぎること

両親または教師である私たちは，子供が福音に関して決断しようとする時，大きな影響を与えます。時として，私たちは手伝いすぎることがあります。たとえば，子供たちにお祈りを教えようとする場合，私たちがよく犯す間違いを考えてみましょう。本当の祈りが，お祈りをしている人の心からの考えや，感情や願いの表現であることはだれでも知っています。けれども，私たちは子供に，マタイ６：９～13「主の祈り」のように「正しい」お祈りの型を教えようとするあまりに，子供自身のでなく大人の言葉や考えや感情を言わせようと「コーチ」します。この結果，子供は心に感じた言葉よりも，型の方が大切だと信じ，お祈りをしている時「間違い」をしないかと心配するのです。これを一定の間続けると子供は定型化した暗誦の祈りや決まりきった言葉をおぼえて大人になるまでそのお祈りしか言えないのです。そして，また↗今度は自分の子供のコーチになり，同じ祈りや「食事の祝福」を何代にもわたって続けるのです。

お祈りの方法を学ぶ子供に大人が「コーチ」する場合，子供はしばらく考えます。まだ言葉に慣れていない子供は，考えを言葉にするのは時間が必要です。この考える時間を与えないで，私たち，両親，教師，子供の日曜学校主任はいらいらして，子供には不適当な言葉を教えることがあります。こうして，天父と個人的なお話をするよりもっと大切なことがあるんだと子供に思わせてしまうことになるのです。

失敗に対する恐れ

こうした同じ問題は，子供が日曜学校の話を準備し，発表する場合にもあります。子供が人々の前に立って読めるように私たちは子供の言うことを書いてあげ，子供を手伝ってやっていると考えるようです。しかし，それが目的の達成にな

るかは非常に疑わしいのです。子供に自分の意見を述べさせることなく他人の考えを単に繰り返させることは，子供の信仰の助成や自信をつけさせるのに何の役にも立ちません。それは子供の考え，感情，意見が他人に話す価値がないと教えていることなのです。そして，読ませたり覚えさせるために話や詩を書いてあげると，その宿題ができないと大人は思っていると子供は考えるのです。責任の与えられる度に両親や先生が作ったお祈りや話を何度も繰り返していると，子供は感情的にかたわになり，失敗を恐れたり，「間違う」のを恐れて，どんなチャレンジもやってみようとしなくなります。

教師や両親が考えた基準に子供が達しないのではとかってに考えてそれを恐れると，子供の考えや話す態度に惑わされて，心配になり，子供の話を書いてあげたり，お祈りを暗誦させたりするのです。そのような両親や教師がいるのは悲しい事実です。

自分でつつかせなさい

福音のうちにあって成長し，進歩するよう子供に全力を出させるために，私たちはどうしたら良いでしょう。以下の質問から答えを導き出して下さい。

1　子供は他人に評価してもらわないで，自分で，自分の考えや感情や意見を評価できますか？

2　子供はだれかが練習の機会をあげなくとも，自分の考えや感情や意見を表現できますか？

3　子供はだれかが自分を信じてくれていると思わなくとも，自信がつきますか？

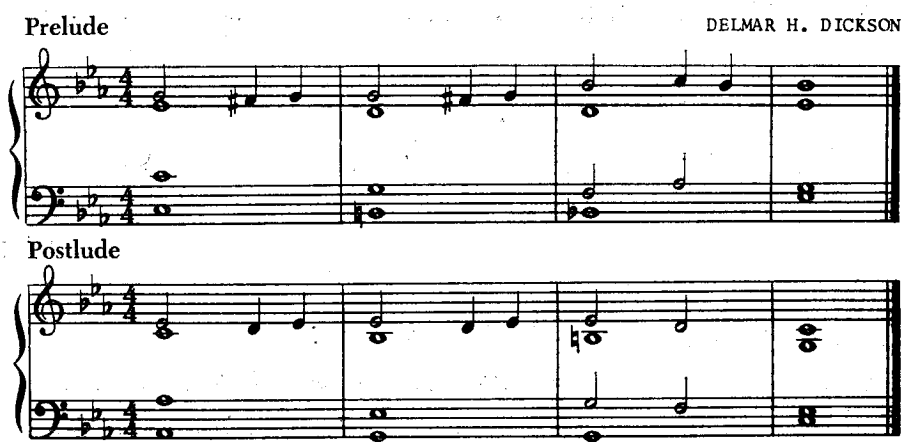
4　子供は失敗の許されないチャレンジを受ける勇気が持てますか？

5　子供はだれかに認めてもらったり，評価してもらわなくとも自分を大切だと思っていますか？

以上の質問を考えてみると，子供たちが神の息子，娘になるには自由にさせることが大切だと判ります。自由意志は神が子供たちに与えたもうた賜です。神は，子供たちが1人1人経験を積まなければ，神のようになれないことを知っておられます。ひな鳥が自分のくちばしでつついて，生きる力をつけるように，私たちは個人個人の努力により，永遠の生命にむかって登る力をつけます。

私たちが意識して子供に努力させ進歩させようとするといつも，子供が全力を出す機会を狭めてしまいます。両親や教師として，私たちは子供にしてやりたいと思う心を抑えねばなりません。子供たちが「飛ぶのを学ぼう」とする時に，私たちはそれを彼ら「1人でさせ」なければなりません。

今月の前奏曲



4月の聖句

大人日曜学校

しかし事実，キリストは眠っている者の初穂として死人の中からよみがえったのである

（Ⅰ　コリント　15：20）

子供日曜学校

イエスは言われた「もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである」

（ヨハネ14：15）

教会の基となっている信条

宇宙の主
イエス・キリスト

十二使徒評議員
マリオン G. ロムニー長老

あなたがたは聖書を知らないから思い違いをしている

十二使徒評議員会補助
マリオン D. ハンクス

あなたがたのうち知恵に不足しているものがあれば・・・・

七十人最高評議員
ブルース R. マッコンキー長老

福音の第一原則と儀式

信仰	十二使徒評議員会補助	ボイド K. パッカー長老
悔い改め	七十人最高評議員	セオドア A. タトル長老
バプテスマ	七十人最高評議員	ポール H. ダン長老
聖霊の賜	七十人最高評議員	S. デルワース ヤング長老

キリストの像：この高さ約3メートル，重さ9トンの大理石像は，バーテル．ソルバルセンの有名な作品であり，テンプルスクェアの訪問者センターに常に展示されている。

宇宙の主
イエス・キリスト

十二使徒評議員
マリオン G. ロムニー長老

「宇宙の主，イエス・キリスト」という言葉を聞くと私はモーセの示現の話を思い出します。この時，モーセは主がおつくりになったたくさんの物を見ました。これらを見て，モーセは，「神を呼びて言いけるは，願わくは語りたまえ。何故にこれらのことかくのごときや。神は何をもてこれらのものを造りたまいしや，と。

……主なる神モーセに宣いけるは，われ自らの目的ありてこれらのものを造りたり……

われわが力の言によりてこれらのものを創りたり。そのわが力の言とは，わが生みたる独子のことにして……

われは無数の世界を創りたり。而して，またこれらはわれ自らの目的ありて造りしなり。而して，わが子によりてこれらの世界を創りたり……

されどこの世とこの世に住める人々の話のみを汝にして聞かす。見よ，わが力の言によりて過ぎ行ける多くの世界あり。また今ある世界多くあり……

一つの世界とそれにつける天の過ぎ行く時は，誠に別の世界を生ず。かくしてわが業にもまたわが言にも終りなし。

見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」（モーセ 1：30〜33，35〜39）

このモーセの書と他の聖典から，次のことが明らかになります。すなわち，天父の代表者であり，「人に不死不滅と永遠の生命をもたらす」という天父の目的を遂行する方であるイエス・キリストは，創造主・救世主という意味で，全宇宙の主であります。地上で死すべき体を持ちたもうて果された使命を除いて，他の世界とそこに住む人々に対する主の業の関係は，この地球と地上に住む人々に対する全く同じかたちで存在します。

モーセは他の世界についてあまり詳しく神にたずねませんでした。彼はただ次のように言いました。

「……神よ……この世とこの世に住める人々と，また諸天のことを語りたまえ，さらば僕の心足りぬべし。」（モーセ 1：36）

この地球について，またイエス・キリストの地球に対する関係についてモーセに告げられた驚くべき事柄は高価なる真珠に記録されています。

宇宙の主であるイエス・キリストを理解する最も確かな方法（もし他にも方法があればですが）は主のこの地球と地上に住む人々に対する関係をよく理解することです。

モーセが告げられたことと同じようなことは聖典の中でくりかえし述べられています。たとえばアブラハムは，主がこの地上で人類の贖いのため大いなる犠牲をはらうように任命されたことについて述べています。

「さて，主はわれアブラハムに，この世に先だちて組織されたる英知たちを見せたまいたりき……，

これらの者の中に，神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは，われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて，これらの者の住まうべき地を造らん。而してこれによりて彼らを試し，何にてもあれ主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

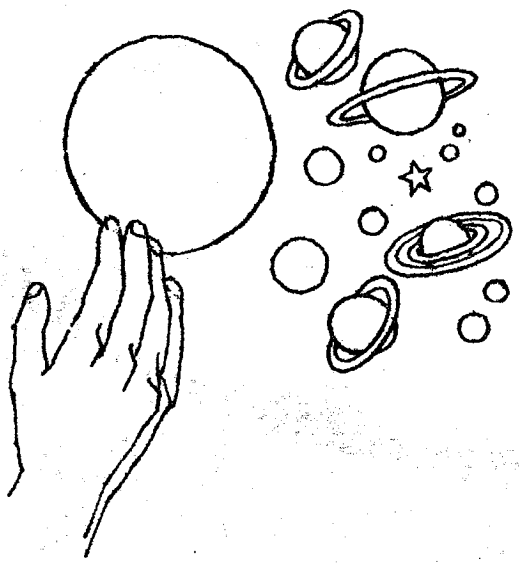
主，宣いけるは，われ誰を遣わさんか。一人，『人の子』の如くに答えて云いけるは，われここに在り，われを遣わしたまえ，と。別の一人答えて言いけるは，われここに在り，われを遣わしたまえ。主宣いけるは，われ先の者を遣わさん」（アブラハム 3：22，24〜25，27）

この天上の大会議でイエスはまさにこの聖句に述べられて

いるようにして救い主として選ばれました。

このことによって，イエスは自ら次のような責任を負ったのです。すなわち肉において神の生みたまえる独り子として死を味わうこと，罪を犯すことなく地上での生活をおくること，悔い改めの意味を全うするためにあらゆる人々の苦しみを受けること，そして自ら進んで十字架上での死をうけ，これによりあらゆる墓は死にうち勝ち復活をもたらすようにすることです。つまり，神はイエス・キリストを通して宇宙をお創りになりました。そしてイエス・キリストは天父なる神エロヒムの偉大な計画，「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」ことを全宇宙にわたって遂行するために選ばれました。このためにイエス・キリストの福音があり，この福音によってのみ人類は永遠の生命を得ることができるのです。

天上の大会議で神は，今私たちが住んでいるこの天と地を



創造する権能をキリストに委任されました。これは次の聖句で明らかにされています。

「然り而して，主宣いけるは，いざわれら降り行かん。神々最初に降り行きたまえり。而して彼ら，すなわち神々は，天と地とを組織し形造りたまえり」（アブラハム 4：1）

キリストがこの世にお生れになる前にこの世とどんな関係であったかということはイテル書にあきらかにされています。皆さん方はジェレドの兄弟たちが海を渡るために数隻の舟を造ったことを思い出されるでしょう。これらの舟の内部を照らすために，ジェレドの兄弟はシーレム山へ行って岩から16の小さな石を溶し出しました。そして「海を渡る間われらの所を照す」ために主が自ら指で石に触れられるように主に願い求めました。ジェレドの兄弟が訴った時に主は手を伸ばし一つ一つ石にその指を触れられました。この時ジェレドの兄弟はその強い信仰により，主の指を見ることを許されました。（ボイド K. パッカー長老著「信仰」60ページを参照）さらに，ジェレドの兄弟はその強い信仰のゆえに主の御姿を見，主は次のようにおおせになりました。

「見よ，われはわが民を贖うために創世の前より備えられたる者なり。われはイエス・キリストなり。……わが名を信ずる一切の者はわれによりて永遠に光を受け……

汝らがわが形にかたどりて造られたることを今汝は見ずや。最初に一切の人々はわが形にかたどりて造られたり。

見よ，今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現わるると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん」（イテル 3：14～16）

イエス・キリストについてよく理解している人，また主の神聖な霊感に導かれて証を得た人なら誰でも主の生涯の記録を読む時強い感動を覚えるでしょう。このような人たちはイエス・キリストが創造主また救い主として宇宙の主であることを示すために言われたこと，行われたことを理解できるのです。

たとえば，イエスが12歳で神殿に行かれた時の話にそれを見ることができます。その時，イエスは両親に答えて，「……私が自分の父の家にいるはずのことを，ご存じなかったのですか」（ルカ 2：49）と言われました。これはその時すでにイエスは御自分が何者なのかということと，この地上での使命についてある程度知っておられたということを明白に物語っています。また，イエスがバプテスマを受けられ，あらゆる人が従うべき模範を示されたことからもうかがえます。同様に，井戸のそばでサマリヤの女に言われた言葉からもこのことがうかがえます。「この水を飲む者はだれでも，またかわくであろう。しかし，わたしが与える水を飲む者は，いつまでも，かわくことがないばかりか，わたしが与える水は，その人のうちで泉となり，永遠の命に至る水が，わきあがるであろう。」（ヨハネ 4：13～14）

ラザロの墓のところで，マルタに答えて言われた次の言葉にもイエスの神聖な使命を見ることができます。「主よ，もしあなたがここにいて下さったなら，わたしの兄弟は死ななかったでしょう」，「わたしはよみがえりであり，命である。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる。また，生きていて，わたしを信じる者は，いつまでも死なない」（ヨハネ 11：21，25～26）

ゲッセマネで全人類の苦しみを受けられ，命を捧げられた十字架上のイエスに，また最初に復活された朝，マリヤに話しかけられたイエスに主としての使命を見ることができます。

「わたしにさわってはいけない。わたしは，まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ，わたしの兄弟たちの所に行って，『わたしは，わたしの父またあなたがたの父であって，わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と，彼らに伝えなさい」（ヨハネ 20：17）

また，イエス・キリストは天父と共に聖なる森でジョセフスミスの前に御姿を見せられ，天父が，「こはわが愛子なり，彼に聞け」（ジョセフ・スミス 2：17）と仰せになられたことからも私たちはイエスの使命を理解できます。

次のヨハネの証は，イエスがこの地上の主であると同時に宇宙の主でもあるということをはっきりと示しております。

「われ，世のいまだあらざりし始めに彼在りしと言う彼の栄を見たり。（イエス・キリストは）すなわち，世の光にして，世の贖い主，世に来れる真理の「みたま」なり。そは世は彼に依りて造られ，人の生命と人の光とは彼によりてありたればなり。諸々の世は彼に依りて造られ，また**人は皆彼に依りて造られたり。また万物は彼に依り，彼を通じ，彼に因りて造られたり**」（教義と聖約 93：7，9～10）

次に述べるジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの証もイエス・キリストについてよく物語っています。

「……わが主の1832年2月16日，『みたま』を感じ，神に関する物事を見て覚るよう，『みたま』の能力によりてわれらの眼は開けわれらの覚りは明るくなれり。すなわち，誠に始めより御父の懐に在りし，御父の生みたまいし独子によりて，御父の定めたまいたる創世の前に始めより在りし物事を見て覚れり。われらこの御方に就きて証をなす。その証はすなわち御子イエス・キリストの完全なる福音にして，われらは天界の示現の中に御子にまみえ御子と言葉を交えたり。

「而して，われら御父の右に御子の栄光を見，その無上完全なるものを受けたり。またわれら，聖き天使らおよび御座の前に聖とせらるる者たちが神と子羊とを拝み，しかも永遠に神と子羊とを拝むを見たり。さて，この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句，われらの為す最後の証は，すなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは，彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また，御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。すなわち諸々の世界は彼の手により，彼の手を経て，また彼に因りて先に作られ，また現に作られ，これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう」（教義と聖約 76：11～14，20～24）

最後に私の証を述べたいと思います。

今まで引用した数々の証，すなわちイエス・キリストが宇宙の主であるという証は真実であります。また，イエス・キリストは私たちの救い主であり，イエス・キリストの福音は全人類のためのものであり，この福音によってのみ人間は今もそして今からのちもたえず昇栄への道を歩むことができるのです。

イエス・キリスト

全き神の姿にて
人の中に住みたもう至高者

御父に委ねられた天地の創り主

エホバ，始めもなく終りもなく
過去，現在，未来，永遠にまします御方

御父は呼ばれた
わが選びの子
わが愛する子
わが生みたる霊の長子
肉体にありし独り子と

はじめにありし言，そは神と共にあり
神であった
言は肉体となり人々の中に住まわれた
この世のすべてのものに卓越して……

ベツレヘムのみどりご
ナザレの少年
悲しみを知る憐みの御方

私の，そしてあなたの
長兄である御方

ジェームス E．タルメージ

天使モロナイ，モルモン経をあらわす
古代の記録が1,400年の間，世界から隠された後，天使モロナイはジョセフ・スミスにその記録をあらわした。ケン・ライリーの原画はテンプルスクェアの訪問者センターにかけられている。

あなたがたは聖書を知らないから思い違いをしている

十二使徒評議員会補助
マリオン D. ハンクス

ほとんどの人は，同胞に対して情深く，正しくあろうとするものです。人間はいやしいものごとから離れて高くなろうと努めます自分は高いところを見つめようと努力しつつ，他の人もそうなれるように助けます。その一つのあらわれは人に見識と力を与えるほう大な数の本が，世の人々に読まれていることです。心身を高揚させる法，献身的な生活法，友だちを得る法，心を呼びさます法，自分を勇気づける法，安心する法，あきらめる法，信ずる法，幸福になる法，安定を得る法，祈り方，愛し方といった数限りない本が出版されています。その中には良書といわれ，多くを教える建設的な本があります。そしてそれらの本に大きな影響を及ぼしている最良の書が聖書という本です。この「神聖な書物」にはさらにモルモン経，教義と聖約，高価なる真珠がふくまれます。ほとんど誰にでも入手できるこれらの書物が人々に読まれていなかったり，認識すらされていないことは奇異なことではありませんか。しかもその書物には，人の言葉や考えや助言以上のものが，すなわち教え，神の真理，神が人々に対してなさった事柄，人々への憐み，関心，愛の話などが含まれているのです。

私たちにとって聖書はどんな点において大切なのでしょうか。私たちは何回読んだでしょうか。どれほど得るところがあったでしょうか。どれほどよく理解しているでしょうか。ほとんどの人が持っていて，しかも手に入れやすいにもかかわらず，我々の中にも聖典を読んでいない人が大勢います。世の人々の中では，読み方も理解のし方も知らない人がほとんどです。私たちはしばしば聖典の知識や理解に欠けることがあります。節や物語を知っていても，節の前後関係や聖句の書かれた周囲の状況，その目的を知らない人がいます。

なぜ聖典を読まなければならないのでしょうか。聖典を読むことにはどんな利点があるのでしょうか。どれほど役に立つのでしょうか。どうしたら聖典を好きになり，理解できるようになるのでしょうか。聖典はどのようにして世に出たのでしょうか。どう読むべきなのでしょうか。

聖典は特別に学者のために書かれたものでもなく，教科書でもありません。聖書は，哲学，倫理学，人間関係について他と比べようのないほど秀れた教えと見識を備えています。すばらしい詩，驚くべき歴史，意味の深い神学，当を得た格言が記されていますが，これらは聖典本来の目的ではありま

せん。聖典はごく普通の人々に，霊的な導きを与えるために書かれました。聖典の言葉は神の御言葉であり，神と神の子供たちの間をつなぐものです。数世紀にわたる神の子供たちの信仰，願い，経験を書いた宗教的な書物が聖典なのです。人々にとって，神の愛，関心，憐みの御言葉は大切なものです。聖典はいつでもその時にただ一つしか存在しない御意を教えて，神と人とを一つの考えにむすびます。そして神が人間に関与したもうことや，神と人との関係に照らして人がどういうものであるかを教えています。聖典の主題は神と人とにしぼられます。

ジョセフ・F・スミス大管長は，聖典に親しむ目的とその結果についてすぐれた洞察をしています。

「聖典が霊感豊かで神聖である理由はとりわけ，書かれた精神と，信仰を持ち誠実に読む人が豊かな霊性を受けることに他ならない。従って，聖典を読むにあたっては，その書かれた目的に沿わなければならない。

聖典は人の霊的資質を伸ばし，神と人との関係について啓示し，その絆を強めるものである。霊的なことに心を向けている者，霊的な真理を求めている者は，他の聖典と同じく，聖書を読むべきである」（ジュー・ビナイル・インストラクター　1912年4月号P.204）

聖典を読むことから来る本当の祝福は，「豊かな霊性」を受け，「霊的資質」を伸ばし，「私たちと神との間の絆」が強くなることであります。

ブリガム・ヤング大管長はそれに重要なことをつけ加えています。

「新旧約聖書を注意して読むと，古えに人に与えられた啓示の大部分は，日常に必要なことに関係していることがわかる。我々はそれと同じ道に従わねばならない。聖典およびモルモン経にある啓示は，我々に模範を示している。教義と聖約は教会に対する直接の啓示である。以上の聖典は我々を導く。我々はこの聖典をなおざりにしたり，すたれさせたり，片すみに置いて意味のないものとはしたくはない。毎日，主イエス・キリストの啓示を受け，聖霊と共にありたいのである。そうなれば，我々はもはや暗やみを歩くことなく，生命の光の中を歩くのである」（説教集第10巻P.284　1863年11月6日）

復活はないと主張していたサドカイ人がキリストにむかって復活した時の結婚について冷やかに質問しました。するとキリストは，復活はすべての人にとって大きな意味があることを話されました。「あなたがたは聖典を知らないから，思い違いをしている」（マタイ 22:29）

私たちもみんな聖典を知らないから，思い違いをしています。予言者の書物は，私たちや私たちの時代と大いに関係があります。私たちの時代とは違う時代に違う状況下で書かれたとはいえ，聖典はあらゆる時代，あらゆる国々，あらゆる世代，あらゆる人々に通用するものです。聖典のあらゆる質問，助言，訓戒，指示，誡命，約束は現代に生きる私たちすべてに大切なのです。神はアダムに尋ねられました。「あなたはどこにいるのか」（創世紀　3：9）同じように，神は今日の私たちにあなたはどこにどのように生きているかと尋ねられます。

聖典には，私たちのあらゆる問題に対する助言とあらゆる要求に対する答がのっています。多くの時代と翻訳を越えて聖典は現代の人にマッチした現代における教えを含んでいるのです。

聖典には，神，キリスト，人間，人間と天父や御子との関係に関する真理が教えられています。これらの真理を学ぶことはすばらしい経験です。全能なる神について，御子について，さら主の霊感により選ばれその導きに従って人々を導く

「聖典は学者のために，また教科書として書かれたのではなく，ふつうの人々のために書かれたのである」とハンクス長老は語っている。

聖き予言者による福音の回復についてその証を持つことほど大切なことはありません。1832年に書かれたジョセフ・スミスの言葉を読んでみましょう。

「聖典を研究せよ。我々が公けにした啓示を研究せよ。そして，御子イエス・キリストの御名によって，天父に真理の証を求めよ。そうすれば，他人によってでなく自分でそれを知ることができるであろう。もはやあなたは，神の知識において人に頼る者ではなく，推測する必要がなくなる。それゆえ，われらは今一度言う。神の啓示を研究せよ。予言を学び神が世の聖見者，予言者と認めたもう人を喜べ。そして世の人々と親しめ。己れを潔くし，同じ栄光に昇り，自身を見，知るのは，あなたの特権である。求めよ，そうすれば，与えられるであろう。捜せ，そうすれば，見いだすであろう。門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう」（教会歴史記録第1巻P.282～84）

主イエス・キリストについて，ペテロはイスラエルの人々に「サムエルをはじめ，その後つづいて語ったどの予言者もみなキリストの降誕を書き記し，キリストの降誕を持ち望んだ」と教えています。このように，イザヤ書，詩篇，ヨブ記そして旧約聖書全体を通じて予言者たちは輝やかしいキリストの使命を予知して予言しています。モルモン経のヤコブは，「……私たちよりも先に出たすべての聖い予言者たちは，……キリストを信じ，その御名によって御父を礼拝した」（ヤコブ　4：4～5）と証しています。

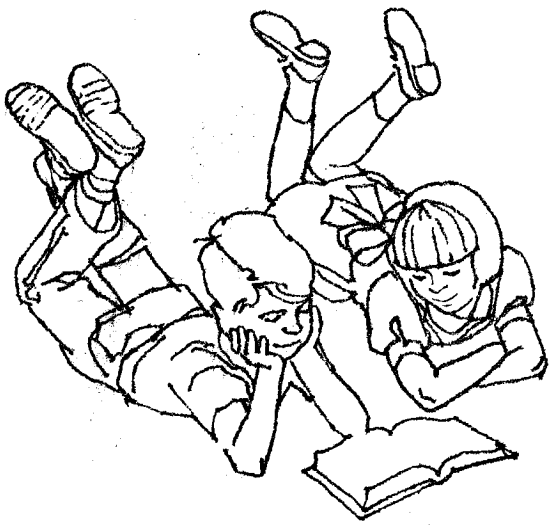
聖典中最も力強いキリストの証の一つに，エルサレムからガザに旅するピリポに直接下った主の使いの話があります。ピリポは天使の話の通り，予言者イザヤの書を読んでいるエチオピヤの宦官に出合いました。聖霊の導きのままに，ピリポはその人に近づいて，読んでいるものがわかるかどうか聞きました。その人はピリポから聖句の意味を教えてもらいました。その聖句というのは，これでした「彼はほふり場に引かれて行く羊のように，また，黙々として，毛を刈る者の前に立つ小羊のように，口を開かない」（イザヤ53：7　使徒行伝 8：32）

「そこでピリポは口を開き，この聖句を説き起して，イエスのことを宣べ伝えた」（使徒 8：35）

この結果宦官はピリポによりバプテスを受け，新しい生活の方向を示してもらいました。パウロはテモテに，聖典とはキリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を，あなたに与えうる書物である」（2テモテ3：15）と教えました。

私たちは聖典で，初めに人は神と共にいて，キリストの贖いと自分自身の信仰，従順，愛と義しく耐え忍ぶことにより再び神と共に住めることを教えられています。地球は人間のために造られて，私たちは「悪魔に身を任せるかあるいはみたまの導きに従う」かどうかを選ぶため地に送られたということを学んでいます。生命は永遠である故に，意味があります。人間は神の子供であって，天父の性質を受け継いでいます。神の子供たちに下したもうた計画は「贖いの計画」，「慈悲の計画」「幸福の計画」として知られています。永遠の存在である神の子供たちに，この世の生活と，「すべてを

得るか，すべてを失うか」の選択をする自由意志が与えられ，祝福されています。救い主はとりつぎをなしたまい，予言者たちには愛により私たちに教え，私たちのために生命を捧げるようにと召されました。神聖な賜物を与えられ，地上で生活する間に進歩することを許された人間には，神と共に住むために神の偉大な業に協力するならば無限の可能性とチャンスが与えられます。研究と奉仕と主をあがめ敬まうことにより人はそのことを知ります。人はそのために地上にいるのです。聖典と予言者は人に知識と霊感とけん責を与えるためにあるのです。



聖典の神学には人に神を感じさせ，神の御言葉を実行させ生活にとり入れさせるという大切な目的があります。人の持つ神への愛と人と神との関係は，あらゆる人々に対する関心や兄弟愛に固く結びついています。聖典では霊性と道徳性が一致しています。聖典は，正しいことや生活の方法を教えるだけでなく，人が正しいことを知りどう生きるかを自分自身で知る助けにもなります。

聖典を前に読んだ時にはとても興味深く読んだけれども，最近は全然読んでいないという人に対してアルマが人々に投げかけた質問は特に大切です。アルマは，父親や自分たちに対する主の御心と，神の深いおぼしめしによってもたらされた信仰を思い出して，次のように尋ねました。

「今もそう思えるか」（アルマ５：26）

私たちは，神のことをいつもよく知っていて，関心を絶やさず，神の業に携わる資格を失わないようにする必要があります。違う時，違うところで記された神と人との関係を教える書物は，それを読む，私たちの日常生活にもよくあてはまり，学ぶべきことを多くふくんでいます。その昔，さまよい歩く気まぐれな子供たちにさえも神の愛と慈悲があつたことを聞くと，現代においても神は確かに私たちを愛して下さり祝福をたくさん受けるように望んでおられることを知り力強く感じるのです。私たちは誠命を力となして，自分に神の望みたもうことや神の御意志に従うだけの能力があることを感じなくてはなりません。

これが私たちに必要なことであります。私たちは心静かに考える時，自分にそれが必要であることを知ります。それは，私たちが本当に神の息子，娘となりたいならば，そして，神の創造の業にともにたずさわって，永遠に神と共に住みたいと思うならば，必ず行なわなくてはならないことです。

「若い時」，伝道に出ていた時，５年前，１年前でも私たちが行なった福音と聖典の研究は十分ではありません。ある人が言ったように，「いつも何かがある」のです。生きてましまし，啓示をたまい，御意を伝えて下さる神がおられます。生きた予言者がいます。人生はめまぐるしく，経験と冒険に満ちています。毎日の生活には経験の機会が数限りなくあります。私たちはわずかばかりの時を過してきて，思索し絶望や悲しみや不安に涙を流し，心から祈り，もっと愛の深い者となるべきことを知りました。私たちは歴史始まって以来最も優しく，最も情け深い，神のような方と共にいることが必要です。その人の直面した問題，その人の耐えた悲しみ試しの時に表わした忍耐と寛容と愛をくり返して，読む必要があります。私たちはその御方が私たちのためになしたもうた数々のことをもう一度考える必要があります。私たちに，神のなしたもう善や比類のない力についての知識を新たにしなくてはなりません。私たちは，信仰，悔い改める勇気，従順になろうとする力，聖霊に対する敏感な心をもっと大きくしなくてはなりません。

私たちが聖典を読みながら，幸福の計画のおとずれを人々にわけ与える責任と，そのための力を感じとるならば，上記

「私たちは歴史始まって以来，最も優しく，最も情け深い，神のような方と共にいることが必要である。」

の祝福にましてさらに多くの祝福が与えられます。

人は自らを神の手にゆだねることができます。また，神より任命され神の導きに従って教え，導き，証しする指導者を信頼することができます。私たちは神の御意，神がなさったこと，神が望んでおりたもうことを知りたいと思っています。人の意見ではなく，これこそが私たちの安全で確かな道なのです。

リーハイとニーファイが見た示現の中で，暗やみを何時間も歩いて神の愛の木にたどりつき，木の実を食べた人たちは素晴らしい祝福を知ったのち，すぐに神が愛しておられる他の子供たちにもそれを食べさせたいと思いました。これが聖典の精神であり，福音の真ずいです。その昔，不完全でありながらも，その精神に忠実であろうと努めた人々と同様に，これはすべてこの人が努力して達成し得るチャレンジです。けれども，それは聖典に示される神の御言葉に絶えず従い，永遠の真理を実行し，神より与えられた目的を達成するための導きと力と信仰を見出してこそはじめて可能なことなのです。

聖　　典

私は，限られているとはいえ，イエス・キリストの福音や，私たちの救いのために啓示されてきたことを知って，教会や人々に奉仕する機会のあることを心より感謝しています。私たちは世の人々にはないたくさんの祝福を受けています。世の人々はその祝福をいただくことができるのに，受けようとしないのです。特にユダヤ人に対して救い主が述べられたように，ちょうど，めんどりが翼の下にそのひなを集めるように，主は世の人々を幾たびも集めようとなさったのです。しかし，人々はそれに応じようとしませんでした。

私たちは世の人よりどれ程恵まれているかに目をとめて下さい。私たちは，古代イスラエルの予言者に与えられた啓示と，地上におられた時の救い主や一世紀に弟子たちにより与えられた啓示を持っているだけではありません。主は今も話し続けられ，その他の人々にも多くの啓示を与えておられます。私たちはその啓示を持っています。私たちは福音の原則がはっきり述べてあるモルモン経を受ける祝福にあずかっているので，つまづくことはないのです。また，特に末日聖徒イエス・キリスト教会と全世界に与えられた啓示の記されている，教義と聖約を与えられています。

私はすべての正直な方々に，聖書以外に「モルモン経」と「教義と聖約」と「高価なる真珠」を読んでいただきたいと思います。私たちは何とすばらしい特権にあずかっていることでしょうか。分裂に分裂を重ねたいわゆるキリスト教界では，聖書に神のすべての御言葉がのっていると主張しています。彼らに，主は啓示をお与えになりませんでした。天から助言や忠告を与える方法，すなわち啓示がなくなってしまったと彼らは教えているが実際には自ら正しい経典と呼んでいる聖書の中に啓示が存続すると書かれているのです。（ジョセフ・フィールディング・スミス副管長）

ジョセフ・スミス最初の見神：この絵は，1820年に御父と御子より答えを受けた少年ジョセフの信仰深い祈りを表わしている。ケン・ライリーの原画はテンプルスクェアの訪問者センターにかけられている。

あなたがたのうち知恵に不足している者があれば

七十人最高評議員

ブルース　R.　マッコンキー長老

あなたが，個人的に啓示を受けてからどれほど経ちましたか。神が霊感のみたまによって，あなたに知恵を与えたもうてからは？　勉強だけでなく信仰によって学んでからは？

この質問に答えるため，次のことを考えてみましょう。

啓示とは何か？

ジェームス・E・タルメージ長老はこう書いています。

「……啓示という言葉は天からの交通によって神の真理を知らせるという意味がある」（信仰箇条の研究P.393）

このように，神が話したもう時，天使が人間に導きと恵みを施す時，聖霊が人々に真理を顕わす時，神についての夢と示現が与えられる時……それらはみな啓示です。人々はこうして，他では知り得ない方法で，霊的な能力，知識，学問，知恵，真理，今も永世にもわたって真実なものを知ることができるのです。

だれが啓示を受けることができるのか？

もちろん，使徒，予言者は言うまでもありません。だが，神と人との間の伝達ラインは数人だけに開かれているのでしょうか？または，神は人を差別しないで，神の目にはすべての人が大切であり，律法を守って神の示現を受ける資格のある人々にも，示現を与えたもうのでしょうか？

ジョセフ・スミスはヤコブへの手紙の聖句を読みました。「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう」（ヤコブ1：5）

そして，みたまに導かれて，ジョセフはこの時満ちたる神権時代が始まる糸口となった祈りを捧げたのでした。ジョセフは神に願い求めました。そして，神は彼に答を与えたまいました。私たちがジョセフ・スミスと同じ程度の信仰と純粋さをもって神に近づけば，同じことが起るでしょうか？あるいは，これは一時期の一個人に限られるのでしょうか？

聖句には「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，願い求めるがよい」そうすれば，神は，すべての人にどこででも，扉を開けて，知恵を与えて下さると言っておられます。福音の神権時代に導きを与えるために天父と御子が，一人一人に現われたまわないことは確かですが，必要に応じて私たちは信仰により知恵と導きを受けることができます。

教会の会員はバプテスマの時に聖霊の賜を受けました。これは，私たちが信仰を持ち続ける時に絶えざる聖霊の導きを

「すべての教会員が啓示を受けられるかどうかではなく，受けているかどうかが問題である」

受ける権利を確保したということです。ジョセフ・スミスは教えています。「何人たりとも，聖霊を受けずしで，啓示を受けることなからん。聖霊は，啓示を与え給うお方なるがゆえなり」（ジョセフ・フィールディング・スミス，予言者ジョセフ・スミスの教えP.328）

教会に対する導きと指示に関する啓示は，教会を治めるように神より聖任されたただ一人の方を通じで与えられます。教会全体に対する啓示は，主のぶどう園の鍵を与えられている人だけを通じて与えられます。けれども，救いは個人個人の問題です。教会の会員は，聖霊から個人的なことで霊感と導きを受ける資格を与えられており，またそうするように教えられています。

「主なるわれはわれを畏るる者に恩恵と憐みとを与え，終りまで義しく且つ真実にわれに仕うる者に誉を与うるを喜ぶ者なり。彼らの得る報いは大きく，その栄は永遠なるべし。われは彼らにすべての奥義，すなわち……わが王国のあらゆるかくれたる奥義を知らしめ……誠に永遠の驚異をも彼らは知らん。また，やがで起るべきこともわれ彼らに示さん。すなわち多くの代のことを彼らに示すべし。而して，彼らの智恵は大いなるものとなりてその覚りは天に届かん……そはわが『みたま』によりて彼らの覚りを開き，わが能力によりてわが意の秘密を彼らに知らしむればなり」

（教義と聖約76：5～10）

これと同じ原則について，ジョセフ・スミスは次のように述べています。「……神は，十二使徒に知らせんとすること以外には，何事もジョセフに啓示したまわなかった。実にいと小さき聖徒にすらその理解力に応じて，すべてを知り得るようになしたもうたのである。」

（予言者ジョセフ・スミスの教えP.149）

すべての教会員が啓示を受けられるかどうかではなく，受けているかどうかが問題です。事実，啓示は信仰厚い者におのずと与えられるものなのです。

もし啓示を受けないとしたら，その人の将来は狭められてしまいます。神は聖霊の力によって聖徒たちに話したまいます。聖霊の声に聞き従う聖徒たちは，人生の導きと神に対する従順さを失わない権利を持っているのですが，聖霊の声に聞き従おうとしない人たちに，その権利はありません。

どのようにしたら啓示を受けられるか？

もし，私たちが**学び，祈り，従順**であるならば，つまり，神が啓示したもうたことを学び，心の中でよく考え，正直な心と信仰をもって尋ね，答えを得られると信じて啓示の意味を神に尋ね，さらに深い意味を神に求めるなら，また，聖霊は不潔な体には宿りたまわないので，聖霊が私たちとともにあるように潔く，正しい生活をするならば，私たちは啓示を受けることができます。

この真理については二つの説明で十分でしょう。

その一，主はオリヴァ・カウドリに述べられました。「……汝ある知識を受くべしと信じて信仰をもて真心より求むる如何なる事の知識をも，これを得んことは汝の神にして汝の贖い主なる主の今生きて在るが如く正に確なり。然り，見よわれ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。そもそも，見よ，これは啓示の『みたま』なり……」（教義と聖約 8：1～3）

カウドリ兄弟は意味を理解しようとしましたが，信仰と準備

が悪いためにそれができませんでした。

その二，ニーファイの兄弟たちは，父リーハイの教えに反抗しました。「見よ，父の言葉は何のことだか解らない」と兄弟たちが言うと，ニーファイは「あなたがたは，主に尋ねたか」と言いました。兄弟たちは，「主に尋ねてはいない。主はこんなことをわれわれに知らせないからである」と言いました。ニーファイの答えの中に，私たちは，啓示を求めるために必要な大切な原則を見出すことができます。「あなたがたが主の言いつけを守らないのは何故であるか。あなたたちの心をかたくなにして亡びを招くのは何故であるか。主がこれまでに仰せになったことを憶えていないのか。主は『もし汝らその心をかたくなにせず，答を受くと信じ，固き信仰を持ち，わが誡命を勤勉に守りてわれに願わば必ずこれらのことを汝らに示さるべし』と仰せになった」（Ｉ・ニーファイ15：７～11）**結論は啓示を受けなさい**ということです。

末日聖徒として私たちの責任は，啓示を受けることです。私たちは他人の証詞だけに頼ってはなりません。自分で知るように望まれています。リーハイは示現を見て，ニーファイにそのことを話しました。するとニーファイは，その示現を自分にも見せて下さるようにと信仰をもって主に願いました。

例えば，私たちはモルモン経を読み，心の中でその内容をよく考え，その後に，それが真実なものかどうかを神に尋ねるべきであります。

啓示者である聖霊の力によって，その真実であることは，私たちに知らされます。そして，それだけでなく，「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る」のです。

啓示の器は今や満たされ，交通の道は確立されています。

あなたが個人的な啓示を受けてから，どれほど経ちましたか？　神が霊感を与えるみたまによって，あなたに知恵を与えたもうてからは？　勉強だけでなく信仰によっても，学んでからどれほど経ちましたか？　あなたはいつそれらのことを経験しましたか。

祈　り

神は，聖霊の働きと力を通して，いずこにも在します。しかし，聖霊の臨在と力とは，求めなければ，人の子らにもたらされません。「求めよ，そうすれば，与えられるであろう。捜せそうすれば，見いだすであろう。門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう」人は聖霊を求め，聖霊と共に歩むことができます。けれども祈りによって心の窓を開かなければ，それに全く気がつかないものです。それは，祈りがこの大きな力を心に触れさせ，とどかせる方法であるからです。この聖霊の力こそ，人に助けと恵みを与えるのです。ですから，私たちがこういう状態にあるとしたら，主の助けを得ないで，誰が，敵がうず巻く人生の危険を浮沈を乗り越えて安全に歩み，幸福になることができるでしょうか。私たちが心から聖霊を求め，心を開けないと，聖霊は，スピリットを私たちに下すことも，それに気づかせることも，与えることもできません。

天父の御許からどんなに遠くあろうとも，子供の叫びは聞かれないことはありません。それは子供にはすぐにも神様やその叫びに答えてくれる人々に聞いてもらう方法があるからです。私たちは，遠くから来るおとずれを聞くため送信機に同調するよう私たちの受信機を工夫するのも忘れてはなりません。そうして，神と聖霊と真理と共に歩まなければならないのです。もし，おとずれをキャッチしたら，同調しなければなりません。祈りがその方法です。心に怒りや苦しみがありますか？　私はそういう状態の時，祈ることができません。けれども祈ると，やがて，そういう状態からぬけ出ることができます。神の誡命を守り，正しい精神で祈れば，自然に完全な一致と調和した状態になるのです。肉体の耳に言葉として聞えないでしょうが私の霊には，祈りに答えて下さる天父の御言葉が聞えるでしょう。

メルヴィン　Ｊ・バラード　1923年６月大会

（インプルーブメント　エラ・26巻　P.989～991）

信仰：ロバート・スケンプによるこの絵は，福音の第一原則であるイエス・キリストを信ずる信仰を実に巧みに表現しており，原画はロス・アンジェルスの訪問者センターにある。

信　仰

十二使徒評議員会補助
ボイド K. パッカー長老

第二次世界大戦の時，日本の大阪の町は，建物がくずれ，通りには石がちらばり爆弾の穴があき，壊滅寸前でした。わずかに地下鉄だけ残って，戦争が終ったのちは，ただ一つの市民の足となったのです。

秋も深まった天気の良いある日，私が数人の軍人と共に地下鉄を出ると，目につくものといえば，荒涼とした戦争のつめあとばかりでした。以前にはカエデ並木の続いた広い道路も，まったく荒野原でした。ほとんどの木は枯れていましたが，それでも何本かの木は痛んだ枝をつけて立っていました。見ると，二，三本は新しい葉や枝をつけようとしています。道路にちらばった石の間に落ちている黄色い葉が，風で舞っていました。

所々やぶれた着物を着た女の子が，石によじのぼってはいっしょうけんめいカエデの葉を集めていました。よう精のようにかわいい少女は，まわりの荒れはてた有様がまったく目に入らない様子で，石によじ登ってはきれいな葉を拾い集めていました。

自分の世界に美しいものを見出したその子は，おそらくその場で最も美しい光景だったでしょう。

私はその少女をいつまでも忘れることができません。少女のことを思い浮かべると，私の信仰は増すのです。

その少女の中には虚しい荒廃に対する答え，希望が具現されていました。

子供は奪い去ることのできない正直な飾らない心を持っています。大人からめったに教えられないような純粋でしかも絶対的な信仰というものを持っています。主は弟子たちにお教えになりました。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう」（マタイ 18：2～3）

子供にはプライドや虚栄がほとんどありません。信頼しきって心から答えてくれます。

わずか15歳のジョセフ・スミスが父なる神や御子イエス・キリストとお会いしたことを疑う人々がいますが，神さまがその王国を地上に回復する際に，代弁者として年若い少年をお選びになったことは何ら不思議ではありません。

おそらく御二方にまみえたその示現よりさらに素晴らしいものは，静かな森に入って祈り尋ねた素朴で純真な信仰でありましょう。

信仰と謙遜は一体です。神に頼り神を父として受け入れる人は，信仰を養う素地が準備されています。

モルモン経には強い信仰を持った人のことが書かれています。ジェレドの兄弟は16個の小石を持って山へ登りました。主の御手に触れていただいて，旅をする時の舟のあかりにしょうと思ったのです。願いは聞き入れられて，主が石に触れたもうた時，ジェレドの兄弟は主の指を見ました。主が骨肉を持つとは知らなかったジェレドの兄弟は，主の前にたおれ伏しました。主は彼に「汝の信仰厚き故に，われはわれが**この後**血肉を受くる事実を汝に見せたるなり。これまで汝の如き大いなる信仰をこめてわが前に来りし者なし。汝も，もしこれほど熱き信仰を持たざりせば，わが指を見ること能わざりしならん。汝はわが指のほかに見たるものありや」と言われました。

ジェレドの兄弟の答えは勇気あるものでした。「主よ，指のほかには何も見ざりき。御姿をわれに見せたまえ」（イテル 3：9～10）

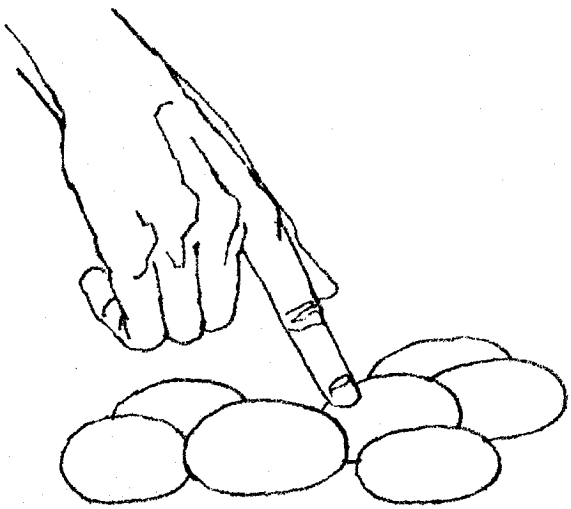
主の答えの中の未来をさし示す「この後」という言葉は信仰を実によく説明しています。

彼の信仰を試して主は尋ねました。「汝はわれがこれより

告ぐることを信ずるや」（イテル 3：11）と。この問いが「われがこれまで告げしことを信ずるや」という言葉でないことを興味深く思いませんか。過去のことではなく，未来のことを言っているのです。ジェレドの兄弟はまだ起こらないことについて，自らをゆだねよと言われたのです。彼は主がまだ語っておられないことを信じようとしたのです。

私たちのうちでそのような信仰を命じられる人はほとんどいません。私たちは，これから言おうとすることを信じなさいと命じられても信じられるものではありません。自ら進んでまだ言われていないことに身をゆだねるためには信仰が必要です。

主は「汝はわれがこれより告ぐることを信ずるや」と言って，ジェレドの兄弟を試されました。彼は「主よ，汝は真実の満ちたる神なる故，偽りが言えず真実を宣うことを知る」と答えて，強い信仰をあらわしました。主は言われることをすべて信じるジェレドの兄弟を見て，彼に姿を示されました。ジェレドの兄弟は実際に主の御姿を見て，知識を得ました。こう記されています。



「ジェレドの兄弟には深い知識があったから，幕の内を見ることを禁ずることができなかった。それであるから，ジェレドの兄弟はイエスの指を見てそれが主の指であることを知り恐れて倒れた。ここに於てジェレドの兄弟は信仰のみならずまた疑わずに確に知る知識を得た」（イテル 3：19）

信仰は，まだ知られていないことが中心となります。信仰は，必ずしも確かな証拠を必要としません。信仰とは，光の端まで歩いて，そののち暗やみへ数歩を踏み出すことであります。すべてが知られているならば，すべてを説明せねばならないとしたら，あるいはすべてを証拠立てなくてはならないのなら，信仰は必要ありません。信仰の余地はありません。

予言者アルマは言いました。

「もし天からのしるしを自分に見せてくれるならば確かに知って信じようと言う人は多くある。しかし，このようなことは信仰であるか。いや，これは信仰と言うことではない。なぜならば，もし人が物事を知っているならばこれを信ずる必要のあるわけがない。すでにこれを知っているからである……信仰については私がすでに話したように，信仰とは完全に物事を知ることではない。それであるから，あなたたちにもし信仰があるときには，まだ見ていない本当のことを待ち望む」（アルマ 32：17～18，21）

信仰には二種類あります。一つはあらゆる人に普通に備わっています。夜明けが来たり，春がめぐり生物が成長するというような，経験から生じる信仰です。それは起こることをはっきり教えてくれる信仰，荒廃した町でカエデの葉を拾っていたあの日本の少女に説明される信仰です。

他にごくまれなもう一つの信仰があります。それは何かを実現させる信仰です。資格と準備が必要な，何にも屈しない信仰，それはできそうにないことを実現します。人々を動かし時にはものをも動かすその信仰は，ごくわずかの人しか持っていません。それは少しずつ大きくなっていって，ついには，目に見えなくとも実在している電気のように，素晴らしい力となります。その信仰は正しく導かれ，用いられる時に偉大な成果をもたらします。

しかし，信仰は信仰です。ある人が信仰を「実験」してみようとしました。彼は何かが必らず起こるはずだと言いました。しかし期待していた出来事は何も起こりませんでした。彼は「起こらなかったのですよ。そんなはずはないと思っていました」と言いました。

疑惑と無神論の満ちる世の中では，百聞は一見にしかずということわざがあり「しるしを見せなさい。そうすれば信じよう」という態度を助長しています。私たちはまず証拠を求めます。信仰によってものごとを受け入れることはむずかしいように見えます。

霊的なことがらは，百聞は一見にしかずという方法によらないということを，私たちはいつ知るのでしょうか。霊的なことについて知識を得るためには，その前に信仰が必要です。まだ見てはいないが，それにもかかわらず確かであると信じる時に，私たちは信仰を持ちます。

予言者ジョセフ・スミスは言いました。

「ノーヴァスコシアの半島の淵に沈められても，ロッキー山脈の頂上につながれても，決して落胆してはならない。……手を離さずに信仰を働かせ…勇気をふるえば，そこから逃れ出ることができるであろう。……」（ジョージ A・スミス著 ジョージ A・スミスの回顧録 P.81～82）

信仰は増してゆきます。光のように私たちの前を伸びてゆきます。時として疑いの霧が私たちを厚くおおっても，屈せぬ信仰はその霧をつらぬいて光を送ります。

ニーファイが言ったように，私たちは信仰を働かせるのです。「私は何をせねばならぬのか，前以てそれを知らずにただひとすじに『みたま』に導かれて行った」（I，ニーファイ 4：6）

信　仰

十二使徒評議員

デルバート　L.　ステイプレー長老

人生と人生の目的に信仰を持ちたまえ。我々が喜びとしあわせを得るよう，神がそれを備えたもうたことを知りたまえ。日々を賢明に実り豊かに生きたまえ。

我らの主であり，肉にあっては父なる神の独り子，恵みと真理に満ちたキリストを信ぜよ。

予言者の書に言われるごとく，その御方がベツレヘムのみどり児であると信ぜよ。

イエスが，平和の君，全人類を救う君にましますことを信ぜよ。

救いと昇栄と栄えある福音の計画を信ぜよ。人を死よりあがなうために生命を与えたもうた比類ないキリストの愛を信ぜよ。

イエスが我らのあがない主，救い主，神でましますこと，我々の救われる名はそれを他にして天下に一つもないことを信ぜよ。

地上で行なわれた御業と，喜びやしあわせをもたらすイエスの聖い教えを信ぜよ。

主は復活したまい，栄光ある位にのぼられて，今は父なる神の右に座したもうことを信ぜよ。

復活により，死の縄目が解き放たれて，それがために全人類が復活することを信ぜよ。

この神権時代に，御父と御子の現われたもうたことを信ぜよ。

父なる神と御子イエス・キリストが骨肉の体をもって少年ジョセフ・スミスに現われたもうたことを信ぜよ。時満ちたるこの神権時代に，そのおとずれを知らせる者として，神よりつかわされた真の予言者ジョセフ・スミスを信ぜよ。

ジョセフ・スミスを通じて，主により建てられた神の教会を信ぜよ。

啓示の続いていることを，神の言いたもうたことをすべて信ぜよ。

御業やその王国に関して多くの偉大にして大切なことがこれよりのち啓示されることを信ぜよ。

神権の権能を信ぜよ。「そは，わが僕らを受け入るる者は，われを受くるなり」と主は言われた。

神の力と，いやしや奇蹟のたまものを信ぜよ。

正確に翻訳されたる限り聖書を神の御言葉であると信ぜよ。

モルモン経を信じ，霊感あふれる真理と信仰の御言葉を信ぜよ。

教義と聖約を信じ，その教えが今日の時代にあてはまることを信ぜよ。

神に選ばれた予言者，信仰の父アブラハムと偉大な律法者モーセによる価値ある教えが含まれている高価なる真珠を信ぜよ。

あなたがアブラハムの子孫であって，イスラエルの家に属する約束の子であることを信ぜよ。

予言者，聖見者，教会と今日の世界に啓示を受ける者である愛するデビド・O・マッケイ大管長を信ぜよ。

大きな召しにある大管長を支持し，彼のために祈るべきことを信ぜよ。

疑がわず，信仰深く謙遜であるべきことを信ぜよ。

キリストの福音の儀式と教えと原則を受け入れ，それに従うべきことを信ぜよ。

個人的な考えや望みはさておいて，力をつくして良き業を行ない，神の御意を実践すべきことを信ぜよ。

奉仕の価値を知り，時間と才能とたまものを用いて，王国を建設し人々を祝福すべきことを信ぜよ。

正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行なうべきことを信ぜよ。正義と真理をもって最後まで神を愛し仕える信仰深き者に神の祝福と報いのあることを信ぜよ。（インプルーヴメント・エラ第63巻　P.420～421）

悔い改め：福音の二番目の原則は，ロバート・スケンプの絵にあらわされている。その他の「第一原則」の絵とともに，これは訪問者センターの「人生の目的」の部屋に展示されている。

悔い改め

七十人最高評議員

セオドア A. タトル長老

どこか美しい場所に立とうとする自分を夢に見たことがあるでしょうか。泥にまみれ衣は破れ汚れている自分が，そこに立つためにきれいになろうとけんめいになっている夢を見たことはありませんか。美しいその場へどうしても行きたいと思いませんでしたか。目がさめてそれがただの夢だとわかった時，いっしょうけんめいに行こうとしても，どうしてもそこへ行けず苦しかったことを思い出し，吐息をついた経験がありませんか。

そのような夢から，福音の偉大な原則，悔い改めについて教えられることがあります。

あらゆるものごとには悔い改めが必要です。もしこの素晴らしい原則がなかったならば，この世や次の世がなんと絶望的な場所となるか，少しの間考えてみて下さい。

デビド O. マッケイ大管長はおっしゃいました。「イエス・キリストの福音にふくまれるすべての原則，儀式は，人が進歩し幸福になり，永遠の生命を受けるために重要である。しかし，永遠にわたって神聖な悔い改めという原則以上に，人類家族の救いにとって大切なものは存在しない。悔い改めがないならば，だれ一人として救われない。それなくしては，進歩さえできない」と。

悔い改めとは何でしょうか。どういう働きをするのでしょうか。私たちのよく知っているものにたとえてみましょう。悔い改めは石けんのようなものです。悔い改めは人生の石けんです。石けんのように人生の罪を洗うのです。その石けんは必要に応じて使われます。しかし充分に洗わずいいかげんにすませていたら，白い洗濯物は「灰色」になってしまうということを心にとめなくてはなりません。人生の石けんも，正しく用いる時に，完全に永久に罪を洗うのです。

悔い改めは，罪に対してへりくだって悲しみを抱き，その行ないを変えて義しい行ないに導くものです。ブルース R，マッコンキー長老はこう書いています。

「罪で汚れた死ぬべき人間が，罪の重荷を振り払い不正の汚れを洗い去って，罪のかせからまったく自由になり美しくなることのできる手段，それが悔い改めである。

悔い改めによって赦しを得るために，人は罪を意識し，へりくだって罪を悲しみ，悔いる精神を持たねばならない。罪の重荷を取り去っていただきたいと願い，悪い道を離れることを決心し，進んで罪を告白して，自分に対して罪を犯した人を許さなくてはならない。そして水のバプテスマと聖霊の賜を通して与えられるような，キリストの血による清めの力を受けなくてはならない」（ブルース R. マッコンキー，モルモンの教義 P.630）

天の御父は，地球をお造りになり，人間をつかわした時まず信仰を与えて人を行ないへと導びかれました。しかし自由意志を与えられて律法の中に生きた人間があらゆることを完全に行なえるとは想像できません。人を行ないに導く信仰は，よくないこと，悪いことを行なう原因ともなります。それゆえに，人が進歩するためには悔い改めという第二の偉大

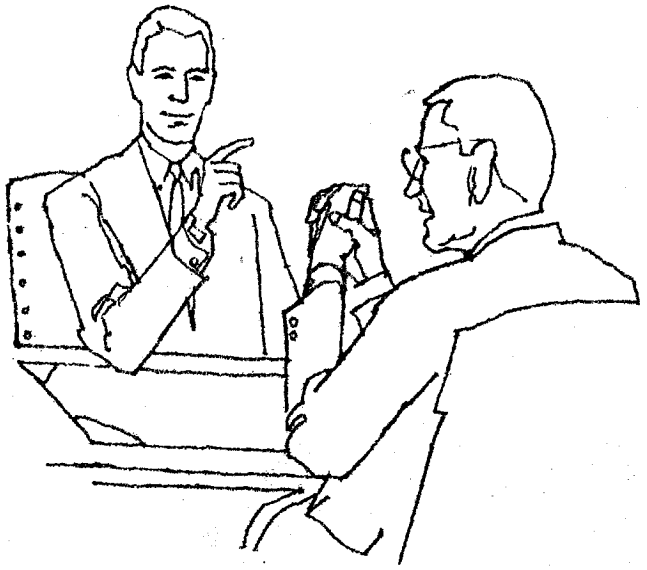
Robert Oliver Shamp

な律法に従わなくてはなりませんでした。

はじめより，この福音は悔い改めの福音と呼ばれてきました。悔い改めはアダムに教えられ，すべての神権時代に教えらてきました。私たちの神権時代になって，回復された福音はまた悔い改めの福音とも呼ばれています。私たちの使命は，悔い改めを今の世の人々に叫ぶことであります。

悔い改めは赦しを生じます。主は悔い改めと赦しについて教えておられます。「見よ，およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され，主なるわれもはやこれを忘るべし」（教義と聖約 58：42）

罪を悔い改めた人が赦されるとは，何と素晴らしい恵みあふれることでしょうか。主は，もはやその罪を忘れるとつけ加えておられます。それらはすべて，悔い改めによるのであ



ります。

では私たちは悔い改めをどのようにしてはかるのでしょうか。主は次の節でこう言っておられます。「人罪を悔い改めしや否やは，見よ，彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ，その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし」（教義と聖約 58：43）

罪を犯した時に求められる二つの責任は，(1)ふさわしい教会指導者（ふつうは監督）に告白する。(2)罪を捨て去ることであります。

ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は，「告白をして赦される」ということには考えるべき余地があると言われました。赦しをいただくためには，へりくだった心と悔いる精神を主に捧げなくてはなりません。赦しについて主はおっしゃいました。「主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる」（教義と聖約 64：10）

自らは人々を許していながら，悔い改めの原則を正しくふみ行なったあとでも自分を許そうとしない人々がいます。

主は，すべての人は悔い改めなくては苦しみを被ると言われました。その苦しみから逃れるために，人は悔い改めてイエス・キリストの福音を受け入れなくてはなりません。主は予言者ジョセフ・スミスを通して啓示なさいました。

「この故に今われ汝に命ず，悔い改めよ。わが口のしもととわが怒りと，わが憤りとを受けて汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず，その如何に強烈なるかを汝知らず，また如何に堪え難きかを汝知らざるなり。見よ，われは神なるに，人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために，すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。されど，人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。その苦しみたるや，われ神，すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ，あらゆる毛の孔より血を湧かせ，身と霊と両つながらを苦しめ，すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。然はあれども，父なる神は讃むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ，人の子らの為に準備を為し終りたり」（教義と聖約 19：15～19）

この言葉を充分理解する時に，はじめて，私たちのために為された救い主のあがないの重要性を理解できることでしょう。主は私たちの罪の償いをして下さいました。私たちが悔い改めてキリストの御名と福音を受け入れ，いましめを守ることによって，あがないの力が発揮されるのです。

私たちが福音を受け入れるという私たちの義務を理解する時に，福音の計画全体がはっきりしてきます。その時にあがないによる祝福すべてを享受する資格を得ます。その資格をいただいた私たち末日聖徒に与えられるチャレンジは，悔い改めの精神をもって悔い改めをし続けることであります。

ベンジャミン王は，そのことの必要なことを説いています。

「私はすでに言ったけれども，今一度これをお前たちに言おう。お前たちがもしも神の栄光を知り，あるいは神の恵みを知り，神の愛を味わい，自分の心をこれほどまでに喜ばせる罪の赦しを受けているならば，私はお前たちが常々神の偉大

なことと，自分が役立たずで何のねうちもないことと，恩を受けるねうちもない自分に神が恵み深く辛抱強くましますこととを忘れずに思い起して低くへりくだり，毎日毎日主の御名によって祈り，天使の口から示された将来のことを確く信じて変らないことを望む。もしもお前たちの行ないがこのようであるならば，お前たちはいつも喜び，神の愛に浴し，いつも罪の赦しを保ち，お前たちを造りたもうたお方の栄光またはすべて正しく真実であることをいよいよ深く知るようになる。またお前たちは互いに傷つけ合う心がなく，安らかに暮して，あらゆる人にその当然受けるはずのものを与えたいと思うようになる。またお前たちは，自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き互いに争ったり，戦ったりして，私たちの先祖が言った悪魔すなわちあらゆる義しさの敵であって罪の頭である悪魔に仕えることを許さず，お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう」（モーサヤ 4：11～15）

夢ではない時がいつかやってきます。私たちは主の裁きの法廷に出るのです。私たちは汚れて不潔なままそこに立つでしょうか。それとも，人生の石けんである素晴らしい偉大な清めの賜を受け入れ用いて，主の前に赦され，清く美しく立つでしょうか。石けんを用いる時に，あなたは，偉大な悔い改めの原則を人生の石けんとして，魂を洗いたいと願われることでしょう。

悔　い　改　め

悔い改めは，我々の日常生活にあっておろそかにできない重大な事柄である。毎日罪を犯して毎日悔い改めることは主の目に喜ばれることではない。我々は末日聖徒として，人生にあっては今が正しい悔い改めを為す時であることを知っている。

悔い改めを引きのばしてはならない。臨終の悔い改めは律法にかなっていない。人は心身が健康で力にあふれている時に悔い改めて主に仕えなくてはならない。悔い改めの精神を生じる神への信仰が受け入れられる時に，残りの生涯をすべて主に捧げなくてはならない。

我々が主の「みたま」に従うならば，主に栄光を帰する良い業の実をもたらすことができよう。我々は，王国のあらゆる律法が成就されて，小さき者から大いなる者まですべての人々が主を知るその日を待ちかねている。

教会は罪人を受け入れる。それは悪を助長するためでなく，我々の親切によって悔い改めた彼らをすべての不義から清めるためである。

我々は何を悔い改めるのであろうか。悔い改めは，神よりの力によって課せられた律法を犯したあとに続くのであろうか。主はなぜヨブに尋ねたもうたのであろう。「わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え」また次の質問にはいかなる意味があるのだろうか。「あなたがもし知っているなら，だれがその度量を定めたか。だれが測りなわを地の上に張ったか。その土台は何の上に置かれたか。その隅の石はだれがすえたか」（ヨブ 38：4～6）

もしヨブが前世に存在せず，地の基ができる以前に，生命と救いの計画がなかったならば主はヨブにそう問われたであろうか。

我々は天で律法に従うことを約束した。我々は律法を受け入れることによって，この死ぬべき世に来て，さらに高い世へと進歩するための働きができる状態を恵まれた。

悔い改めは，我々が自分の自由意志と選びとによって受け入れ律法を犯したあとに続いてくるのである。

（インプルーヴメント・エラ第58巻P.419. 1955年4月大会　ヘンリー D.モイル副管長）

バプテスマ：罪の赦しのために水に浸められる。バプテスマは，ロバート・スケンプによるこの絵に描写されている。

バプテスマ

七十人最高評議員

ポール H. ダン長老

使徒パウロはローマ人への手紙の中で，バプテスマについて意味深いことを述べています。「わたしたちは，その死にあずかるバプテスマによって，彼と共に葬られたのである。それは，キリストが父の栄光によって，死人の中からよみがえらされたように，わたしたちもまた，新しいいのちに生きるためである。もしわたしたちが，彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら，さらに，彼の復活の様にもひとしくなるであろう」（ロマ 6：4～5）

バプテスマは，その御名をひきうけて主を頭とする霊的な群れに加わることをイエス・キリストと契約するしるしであります。父アルマは，バプテスマは御父に従う契約と理解して，「従って，あなたたちがもしも真心からこれを望んでいるならば，あなたたちは主からますます豊かにその「みたま」を賜るよう，主に仕えてその命令を守ると言う誓約を主に立てた証拠として，主の御名によってバプテスマを受けるのに何のさしつかえがあろうか」と言いました。（モーサヤ 19：10）

しかしそれだけではありません。バプテスマは，人を悪から清めて天の王国にふさわしくするための，神に約束された方法なのです。信仰と悔い改めが先立ち，神権によって執行されるバプテスマは，全人類がキリストの王国に入るための扉であります。

「だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない」（ヨハネ 3：5）

救い主は「ユダヤ人の指導者」ニコデモに，このように簡単な言葉によって，バプテスマの意味，様式，目的，必要なことを明らかにされました。

バプテスマの原則に加えて，バプテスマが救い主の計画を受け入れた人の生活にとってどのようなものであり，どんな変化を与えるかについて考えてみましょう。バプテスマは，希望と，将来は義しく生きようという決意の伴った変化，更新すること，再び生まれること，過去を葬ることを表わします。自由意志によって選択を行なう人間は，間違いをおかします。そのようなあやまちは結果として，人から人生の真の喜びと来たるべき世の祝福を奪います。バプテスマによって過去のあやまちは清められて，人は文字通りに再生を経験するのです。

主は万物に再生の時を用いておられます。秋になって葉が枯れ木から落ちて，その同じ木に翌春新しい葉が生まれることを，私はしばしば考えます。うつろい果てた木がその時に葬られて，新しい生命が地上に満ちるのです。

埋葬と新生は，社会のさまざまな面にも見ることができます。実業界を例にとってみましょう。現在と将来にいつも変らぬ希望を持っている人でも，失敗を心から消し去ることが

できなければ，まもなく勇気と確信をなくしてしまいます。過去の失敗がいつも頭にあるため，信念ややる気がくじけてしまいます。仕事が不振な時に，明日への希望をなくす人もいれば，一方で先に述べた原則を仕事に応用する人もあります。過去を葬って新しく生きることを知らない人は，失敗にこだわってばかりいて睡眠も食事もろくにとれず，健康を害してますます悪い状態になってゆくばかりです。しかし成功する人は，過去のあやまりや失敗を葬って明日への希望に生きる人であります。新しい発見をして古い傷を正す時には，決心というものが必ず存在します。フォード社の社長であるヘンリー・フォード氏のことをお話してみたいと思います。彼は仕事の全盛時代に友人から質問を受けました。「フォードさん，あなたが築いてこられたものをみんな一度に突然失ってしまったとしたら，どうなさいますか」フォード氏はすぐさま目を輝かせてはっきり答えました。「十年の期間を下されば，全部取り戻します」この言葉には，イエス・キリストの福音の精神が表われていると思います。

エルサレムの町なかで，救い主は幾たびこう言われたことでしょう。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」罪やあやまちのある過去を葬り去って，新しい生命に生きなさいと，言われたのです。私たちはバプテスマの儀式によって，キリストの生涯にならう新しい人生をスタートします。バプテスマを受けたあとの変化は，その人の内部におこります。それはバプテスマの儀式に伴うのではなく，バプテスマの次にやってくるものです。ニーファイは言っています「……その門とは，すなわち悔い改めて水のバプテスマを受け，それから火と聖霊によって罪の赦しを受けることを言う」（Ⅱニーファイ 31：17）

モルモンは，バプテスマのあとに来る祝福について言っています。「そして悔い改めの結ぶ最初の実はバプテスマである。バプテスマは人がすでに信仰があるから，また神の命令をなしとげるために行う儀式である。この命令をなしとげると罪の赦しを受け，罪の赦しを受けると柔和謙遜な心を生じ柔和謙遜な心があると聖霊が降る。……」（モロナイ 8：25 26）

イエスは，バプテスマの儀式の重要なことを教えるためにガリラヤを出てヨルダンへ行き，ヨハネから，バプテスマをお受けになりました。救い主に罪のないことを知っていたヨハネは「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずですのに，あなたがわたしのところにおいでになるのですか」と尋ねました。イエスは答えて言われました。「今は受けさせてもらいたい。このように，すべての正しいことを成就するのは，われわれにふさわしいことである」（マタイ 3：13～15）

オルソン　F．ホイットニー長老はそのことについて書いています。「イエスは全人類を代表してバプテスマを受けられたので，一般の人々はバプテスマを受ける必要がないと言う人がいる。そのような人に尋ねよう。あなたは，王だけが国法に従えと言われて，他の人たちはそれに従わなくて良いという国を考えることができるだろうか。またさらには，王だけが国法に従わなくて良いという国を想像できるだろうか。

キリストの王国の律法はすべての者にとって平等公平である。御子は御父の行ない以外には何も行なわず，御自身で守ろうとなさること以外に，人に従順を求めたまわない。『われに従え』と言うことが御子の使命であった。キリストは『すべての正しいことを成就するのは，わたしにふさわしいことである』とは言っておられない。『われわれに』と言っておられる。」

ニーファイは救い主のバプテスマを示現に見ました。

「さて神の子羊は聖くましますのに，それでもあらゆる義しいことを尽すために水でバプテスマを受けなくてはならないならば，まして私たち聖くない者が水でバプテスマを受けるのはいかにも必要なことではないか。……私は神の子羊が水でバプテスマを受けることによって，どうしてあらゆる義しいことを尽したもうたか，これをあなたたちに尋ねたい。あなたたちは子羊が聖かったことを知っていないのか。子羊はたとえ聖くましましても，肉体を受けたもうによって天の御父の前にへりくだることと，天の御父に従ってその命令を守ると証明をすることとを……世の人に示したもうのである」（Ⅱニーファイ 31：5～7）

バプテスマは，主イエス・キリストを信じていること，キリストの御名をひきうけようと望んでいること。キリストの真の弟子になりたいと強く望んでいることを，神と人々に証しすることであります。

アルマはモルモンの泉で人々に語りました。

「あなたたちは神の羊の群に入って神の民と言われること，互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと，悲しむ者を思いやって共に悲しむこと，慰めが要る者を慰めること，また神に贖われ第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の

生命を得るよう，いついかなる時でも，どのような所に居ても，どんなことについても，死に至るまでも神の証し人になりたいと心から思っている」（モーサヤ 18：8～9）

予言者ジョセフ・スミスを通して主は言われました。「およそ神の御前に自ら低くへりくだりてバプテスマを受けんと心に願い，真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て進み出で，真に自己の罪をすべて悔い改めたることを教会員の前に証明し，進んでイエス・キリストの御名をその身に引き受け，而して終りまでキリストに仕えんと決心し，罪の赦を得るほどに「キリストのみたま」を受けたることをその行ないによりて真に明らかにする者は，すべてみなバプテスマによりてキリストの教会に受け入るべし」（教義と聖約 20：37）

これまでに啓示されてきたバプテスマの意味と責任を理解して，バプテスマを自己の生涯に受け入れる人は，永遠の生命の継承者です。バプテスマは軽んじることのできない神聖な儀式です。興味半分の人や試してみようとする人のためではなく，自ら悔い改めて主イエス・キリストを信じ，その証し人になろうと願う人のための儀式です。

古代同様，今日のイエス・キリスト教会にも，水に沈める正しいバプテスマの様式が存在しています。もし全身を水に沈めるのが正しいやり方でなかったならば，パウロはバプテスマを，葬られてよみがえることとくらべはしなかったはずですし，イスラエルが紅海を渡ったこととくらべたりしなかったでしょう。（ロマ 6：3～5，コロサイ 2：12，Ⅱコリント 10：1～2 参照）

新約聖書は，イエスがバプテスマを受けられた時のことを証しています。「イエスはバプテスマを受けるとすぐ，水から上がられた」（マタイ 3：16）「ヨハネもサリムに近いアイノンで，バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである」（ヨハネ 3：23）さらにモルモン経で主は言っておられます。「それよりその者を水の中に沈め，沈め終りて再び水より上れ。わが名によりてバプテスマを施すには，右の方法を以て行なわざるべからず。……」（Ⅲニーファイ 11：26～27）

バプテスマという言葉それ自体には，水に沈めるという意味があって，死と埋葬およびキリストの復活を象徴しています。「あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ，同時に，彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって，彼と共によみがえらされたのである」（コロサイ 2：12）

神より権能を受けた人のみが，バプテスマを施す権利を持っています。古代の使徒はその権能を与えられ，「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施しなさい」と主に命じられました。（マタイ 28：19）初期の教会では，この権能が他の役員たちにも与えられ，その人たちが同様にして，人々にバプテスマを施し，教会へ導いていました。

背教の時代には，神より権能を与えられて民にバプテスマを施した人はいませんでした。彼らは「だれもこの栄誉ある務（神権）を自分で得るのではなく，アロンの場合のように神の召しによって受けるのである」（ヘブル 4：5）ということを理解しませんでした。神に定められた聖い儀式を執行する権利は自分で得るのではないということを知らなかったのです。人は，神より権利をいただいてそれを主の導きによって用いている人から，その権利を授けられるように自分を準備する責任があります。

1829年5月15日，バプテスマを施す権能は地上に回復されました。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはモルモン経を翻訳していて，重要なバプテスマについての文章にゆきあたりました。その内容に深く打たれた彼らは，ペンシルバニア州ハーモニーにある森に入って祈りました。その祈りに答えてバプテスマのヨハネがあらわれ，「汝ら，われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて，われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み，悔改めの福音，罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にしてまことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで，この世より決して再び取り去らるることなし」（教義と聖約13）と言って彼らにアロン神権を授けました。ジョセフとオリバーは，そののちすぐに互いにバプテスマを施しあいました。こうして，人類を救い昇栄へと導くために，今よりのち永遠にわたって，聖なるバプテスマの儀式が地上に再びもたらされました。

古代より叫ばれてきた，重要なこのバプテスマの原則は，今日にも変らず存在しています。それは真であり，永遠に変らない儀式です。末日聖徒イエス・キリスト教会の長老たちは，初期のキリスト教会に言われたと同じことを命じられています。「汝ら全世界に出で行き，一切の生くる者に福音を説き，わが汝らに与えたる権威を以て働き，御父と，子と，聖霊の名によりてバプテスマを施すべし」（教義と聖約68：8）

聖霊の賜：権能を持つ人々による按手礼の絵はロバート・スケンプの絵にみごとに描写されている。

聖　霊　の　賜

七十人最高評議員

S. デルワース ヤング長老

断食集会に集った人々の前で一人の少年が椅子にすわり，そのまわりを三，四人の人が静かに取りかこみました。彼らはその子供の頭に手を按きました。バプテスマを受けた人はすべて，このようにして教会員であることを確認され，聖霊を授けられます。その言葉は簡潔ではありますが，大きな意味を持っています。「……私たちはあなたを末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認し，告げて申します。汝，聖霊を受けよ」このあとに続く祝福の言葉はこの儀式にとって必ずしも必要ではありません。しかし，それもまた大切なものです。神権の権能による祝福は常に大切であります。

この儀式を受けた人はほとんどみな，教会員として確認されることの意味を知っています。しかし，聖霊を受けるということはどういうことなのか，それによってどんな祝福があるのか理解していない人も多くいます。はかりがたいほど価値あるこの恩恵を受けても，その時今までと変った特別な感じを経験する人はほとんどいません。なにかのしるしを期待している人は失望するかもしれません。

大部分のクリスチャンはキリストのバプテスマの時，はじめて聖霊というものを知りました。聖書の言葉がはっきりしていないため，その時はとの形のしるしがあらわれたと断言することはできません。その時から，さまざまな面にわたって聖霊について語られています。

人が神の王国に入るためには，水と霊（聖霊）とによって生まれなくてはならない（ヨハネ 3：3～5）。聖霊はすべてのことを教え，使徒の語ったことをことごとく思い起こさせる（ヨハネ 14：26）。キリストは使徒に聖霊を授けたもうた（ヨハネ 20：22）。聖霊が炎の舌のように現われて，使徒たちは他国の言葉で語り出した（使徒 2：1～4）。聖霊に満たされたステパノは神とキリストを見た（使徒 7：55）。ピリピは「みたま」にとらわれ，連れ去られた（使徒 8：29～39）。

これらの出来事から聖霊と呼ばれる一人の御方について学びますが，どのようにしてこのようにいろいろな場合に賜があらわれるのかは明らかにされていません。今日，主は御父と御子と聖霊について啓示しておられます。

「御父は，人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう御子もまた然り。されど，聖霊は骨肉の体を有ちたまわずして霊の御方なり。もし然らずとせば，聖霊われらの中に住みたもうこと能わじ」（教義と聖約 130：22）

御三方の違いは，その体にあります。目的，能力，栄光などあらゆる点で神会を構成する御三方は一つなのです。御父と御子は骨肉の体を持っておられます。私たちにはそのことが理解できます。日の光栄の復活体の栄光を知らなくとも，骨と肉でできた身体を持っている私たちは，骨肉体の形とはどんなものかがわかります。しかし，霊の御方はなかなか思

い浮かびません。聖霊が個性を持ちたもう特別の御方であることはわかります。しかし私たちと共にいて私たちを慰め励ましキリストを証して下さる聖霊をどのようにはっきりと知ることができるのでしょうか。聖霊は上にあげたすべてのことのできる御方であって，私たちが聖霊に一致しさえすれば，私たちと共にいて慰め励ましキリストを証して下さるのです。

バプテスマを受けた人はすべて聖霊の賜を与えられますがその時聖霊はどんなふうに私たちの中に入りたもうのでしょうか。聖霊は一人の御方ですから，一度に一人のところしか訪れることができません。しかし聖霊は人に影響を及ぼす無限の能力をお持ちです。受ける権利を持った人は，その影響力を感じます。

「みたま」は同じ時にあらゆる言葉であらゆるところに，す

べての真理を送り出しています。人は宇宙に満てる真理を教えられ（教義と聖約76章に記録されたジョセフ・スミスの示現を見ること）個人的な事柄について何を為すべきか霊感により教えられています。

私たちは，聖霊が，天を統める神会の御一方であることを知るだけで充分であります。

モーセの書には，アダムは「主の『みたま』によりとらえられ行きて水の中に引き込まれ，水中に沈められて，また水の中より引き出されたり。……しかしてアダム天より語る声を聞けり，曰く，汝は火と聖霊とをもてバプテスマを受けたり。これ今よりとこしえに至るまで父と子の証なり」と書かれています。（モーセ 6：64～66）

そのあと神はアダムを神の息子と呼んで，「かくの如く一切の者はわが子らとなるを得ん」と言われました。（モーセ 6：68）

その時から人は聖霊の導きによって主の御言葉を実践することになりました。「主なる神は，聖霊によりて至る所の人を呼びてその悔い改むべきを命じたまえり」と記されています（モーセ 5：14）

福音が説かれはじめた時から聖霊によって証しが与えられたということを，私たちは知っています。主は，御自身で人々の間をめぐり使命を果たされた時を除いて，主はいつの世にも聖霊を通して福音を宣べられました。主と交わるこの原則は現在も実践されています。

御父と御子はジョセフ・スミスに語られました。御子は，モロナイ，バプテスマのヨハネ，ペテロ，ヤコブ，ヨハネ，モーセ，エライジャその他の天使をつかわして，教えと能力を授けましたが，教会を導き教義を明らかにするために，聖霊によって予言者に「ささやきたもうた」のです。予言者は言葉や考えを「みたま」によって教えられ，それを自分の国語で述べました。

「みたま」の賜については古代にパウロが述べています。（Ⅱコリント12，13）今日私たちはこのようにも説明されています。すなわち，聖霊によって，ある人はイエス・キリストが神の御子にましますという知識の賜を受け，ある人はその言葉を信じる賜を受け，また他の人はいろいろな務めを知る賜を受け，ある人はさまざまな働きについてそれが神よりのものかどうかを知る賜を受けます。知恵ある言葉の賜，知識の言葉の賜，病いをいやされる賜，病いをいやす信仰の賜，奇蹟を行なう賜，予言する賜，霊をみわける賜，異語を語る賜，異語をとく賜などが多くの人たちに与えられます。（教義と聖約46参照）この言葉から，「みたま」の賜はいろいろあって信仰ある人々の中に広くゆきわたっていることがわかります。それらはすべて聖霊からもたらされ，聖霊によって管理されます。

1839年のある日アメリカ合衆国大統領が，他の教会とこの教会の違いは何かとジョセフ・スミスに質問しました。ジョセフはこう答えました。「……バプテスマと，頭に手を按いて聖霊の賜を授ける按手礼の様式に違いがあります。私たちは，他の大切な事柄はすべて聖霊の賜によって与えられるため，その人に多くの言葉を用いて福音を説くことは不必要であると信じます」（教会歴史記録第4巻 P.42）それが他の教会との相違点であるならば，この教会員は聖霊によって導

かれ，他の教会員は聖霊によって導かれないということになります。それは他の信仰を持つ人々にとってはおだやかでない言葉です。しかし少年予言者にどの教会にも加わるなと言われた時，主はこうおっしゃったのです。「彼らは人の誡命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む」(ジョセフ・スミス 2：19)

私たちは，たとえ教会員でなくとも真理を知ろうと求める人々に対して聖霊が証しをするということをはっきり述べております。モロナイはモルモン経のモロナイ書10章の中でそのことを明らかにしています。しかし人々が証しをこばむ時には，聖霊は証しすることをやめたまいます。聖霊の目的は真理を証しすることであります。すべてのものが帰する究極の真理とは，父なる神と御子が骨肉の体をもって昇栄なさった御方であること，御子は地球を創造して世の救い主，贖い主となるよう命じられたもうたということです。御子は世の罪ゆえに十字架にかかってなくなり復活して，王の王，主の主として義に満ちた位へと昇栄されたこと，幾度かこの地上に御自身の王国なる教会を作られたこと，しかし自由意志をもって統治したまい，サタンにさえ人を試みる自由を与えたもうたこと真の教会が地上から取り去られたことそして予言されている福千年に再びキリストが降臨したもう日に備えて，地上最後の真の教会が組織されたことであります。聖霊はその能力によってこれらのことを人の心に証します。聖霊はイエス・キリストの代理として働き真理に耳を傾ける人々すべての心に真理を証しします。聖霊は福音に記されている真理を探求する人を導き，聖霊の賜を与えられた人々の生活に影響をおよぼすのです。

この偉大な賜にあずかる人は，日々の活動や，仕事，経済的，社会的，宗教的な事柄について助けを求めることができます。義しい人には，真理の「みたま」が義の中にあって彼を導きます。教会員は聖霊の能力によって栄えある啓示を受けています。

友を選ぶ時，仕事をする時，家族と交わる時，多くの人たちは聖霊に導かれて，正しい道を歩んでいます。災難にあうことを警告され，前途の障害に備えて用意をするようすすめられています。病いの時には聖霊の賜によって神権の祝福を受け，悲しみや死にあっても「みたま」の慰めによって希望を与えられます。永遠にかかわる奥義は，真理を感じる心をもった信仰厚い人々に開かれます。そのことは，事実そうであるばかりでなく，まさにそうあるべきなのです。

それは，すべての真理へ導くと主が約束したもうた慰め主なのです。

神会の大いなる位にあって，さまざまな賜を私たちに与えておられる聖霊を知った私たちは，はじめに述べたいろいろな出来事の中に「みたま」が在したもうたということをはっきり知ることができます。

ブリガム・ヤング大管長が警告している言葉に耳を傾けてみましょう。

「私はある方から，啓示によって人々をどう導いているのかと尋ねられた。私は，人々が，「みたま」から日々為すべき自分のつとめを教えてもらえるような生活をし，そのようにして自分自身を導くことができるようにと教えている。「みたま」からそういう啓示を受けるためには，自分の霊を

机に置かれて書き手を待つ真白な紙のようにする生活をしなくてはならない。この世のことを欲張っている末日聖徒を見る時，あなたは彼らの心が啓示のペンを走らせるにふさわしい状態だと思うであろうか。日々啓示の「みたま」と共にいられるような生活をする人は，義務を踏み行なっているのである。そしてそのような生活をしていない人は自分の義務と特権をおろそかにしているのである。私たちがみな，素晴らしいこの特権を享受して生きられるよう，心より願い祈るものである。アーメン」(説教集第2巻1866年6月3日 P240～41)

ブリガム・ヤングは夢でジョセフ・スミスに会い，彼から次のことを教えられました。

「ジョセフは私の方へ歩いてきて，喜ばしそうに力をこめ

て言った。『人々に，主のみたまと共にいて正しく導いてもらえるよう，謙遜に信仰深く生きよと告げたまえ。注意して，何を為すべきかどこへ行くべきかを教える静かな細い声に耳を傾けよと……。それは王国の美しい実を生じるものである。聖霊の訪れる時に，受け入れる心が準備されているよう常に理性に従えと告げたまえ。彼らは，あらゆる霊のうちから主の「みたま」をみわけることができる。主の「みたま」は人に平和と喜びをささやき，憎悪や争いやすべての悪を取り除く。彼らの持つ望みはすべて，義をもたらし神の王国を築くための善を行なうことである。人々に，主の「みたま」と共にあれと告げたまえ。そうした時に，人々はこの世に来る前天で御父から創られたと同じありさまの自分を見出すであろう。御父は人類の家族を組織したもうたが，今はその組織がくずれて，まったく混乱してしまっている』

ジョセフはそう言って私にはじめのありさまを見せてくれた。私はそれを書き記せない。だが私は見た。神権が地上より取りあげられたさまを，そして再び始祖アダムから最後の子孫まであわされて，完全な鎖となるさまを見た。ジョセフはまた言った。『人々に，主の「みたま」と共にいて，それに従えと告げたまえ。そうすれば彼らは義へと導かれる』

末日聖徒はこれらの言葉から，聖霊にうながされて生きることの大切さを理解することであろう。

われらは，永遠の父なる神と，その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず。

（信仰箇条第一条）

御父は，人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子もまた然りされど，聖霊は骨肉の体を有ちたまわずして霊の御方なり。もし然らずとせば，聖霊われらの中に住みたもうこと能わじ。（教義と聖約 130：22）

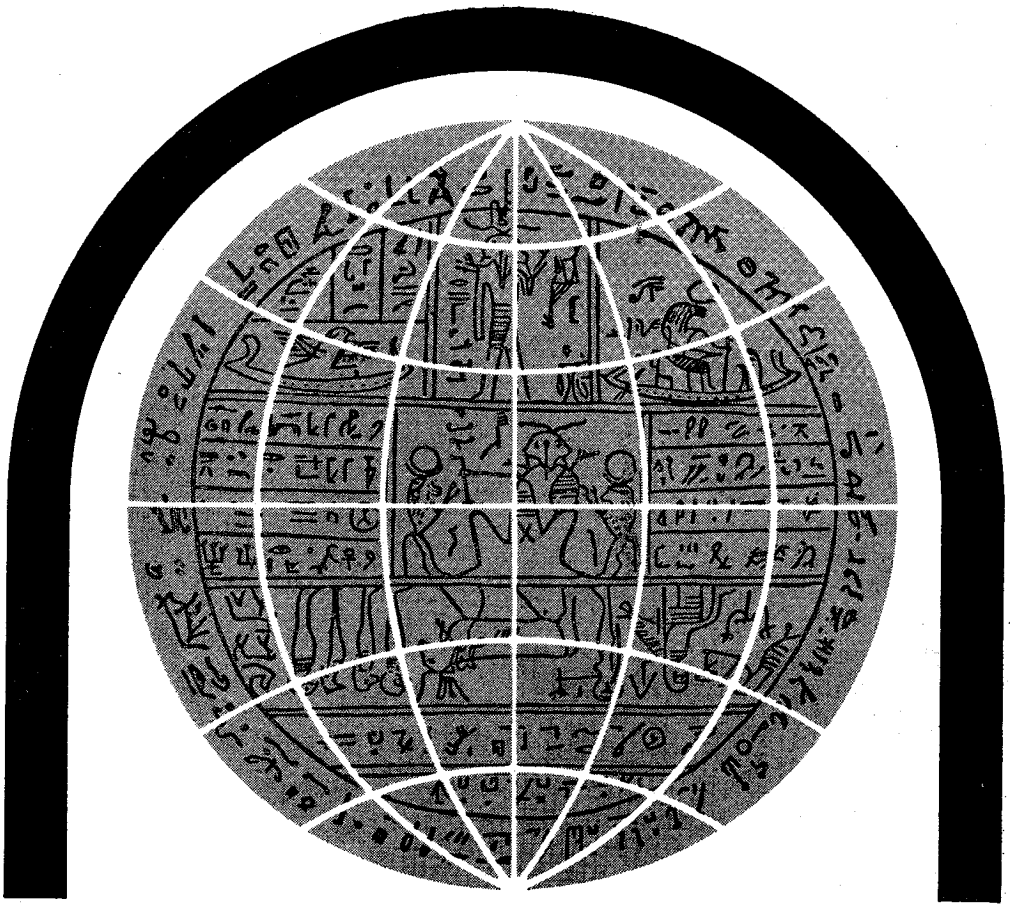
五旬節の日がきて，みんなの者が一緒に集まっていると，突然，激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて，一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また，舌のようなものが，炎のように分れて現れ，ひとりびとりの上にとどまった。すると一同は聖霊に満たされ……（使徒 2：1～4）

ところが，ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えるに及んで，男も女も信じて，ぞくぞくとバプテスマを受けた。シモン自身も信じて，バプテスマを受け，それから，引きつづきピリポについて行った。そして，数々のしるしやめざましい奇蹟が行われるのを見て，驚いていた。エルサレムにいる使徒たちは，サマリヤの人々が，神の言を受け入れたと聞いて，ペテロとヨハネとを，そこにつかわした。ふたりはサマリヤに下って行って，みんなが聖霊を受けるようにと，彼らのために祈った。それは彼らはただ主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで，聖霊はまだだれにも下っていなかったからである。そこで，ふたりが手を彼らの上においたところ，彼らは聖霊を受けた。

（使徒 8：12～17）

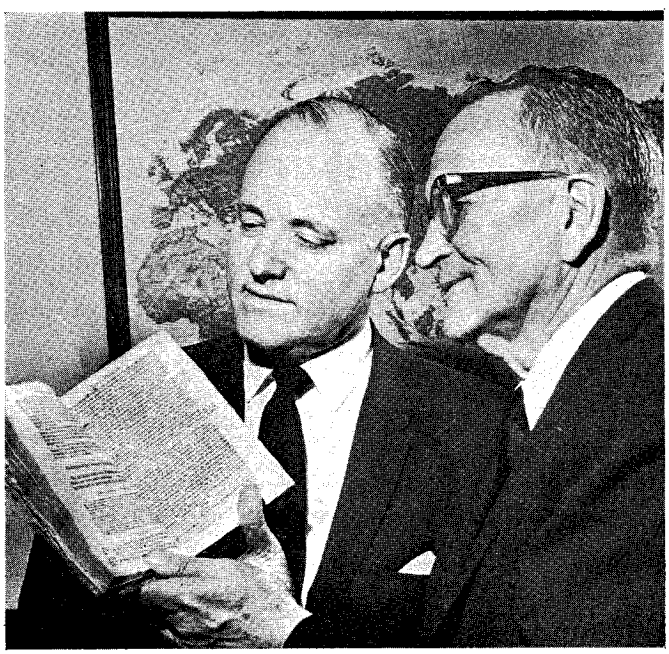
人は聖霊を受くることもあらん。また聖霊はその人に降りたもうことあらんも，彼と共に永く留りたもうことはあらじ。（教義と聖約 130：23）

聖霊の力とは昔の時代でもまたメシヤが世の人に現われたもう時でも，およそ神を熱心に求める者たちに神が与えたもう賜である。（ニーファイ 10：17）



世界系図記録大会

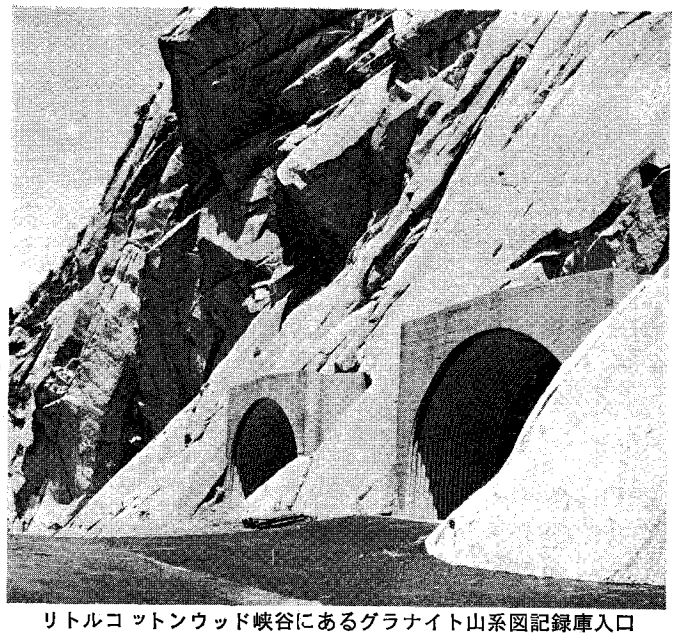
ダグラス D. パーマー



系図協会会長ハンター長老（左）と副会長のバートン長老（右）

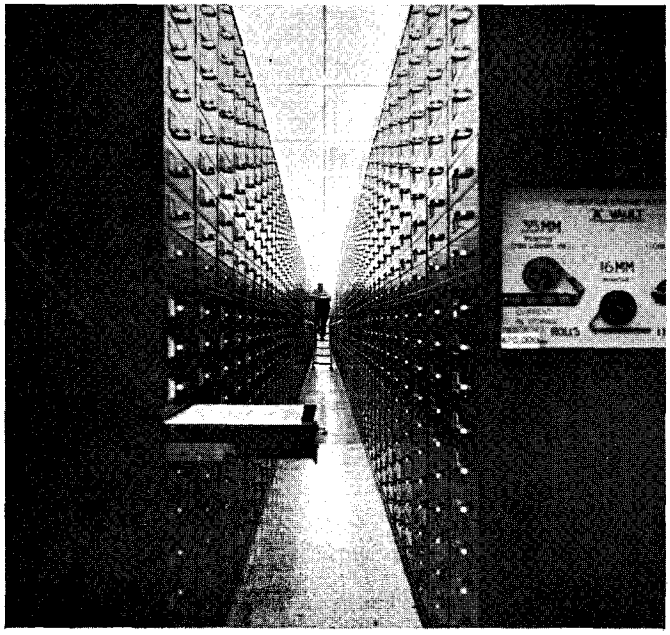
1969年8月，世界各国からの訪問者をソルトレークに迎えると世界系図記録大会が「国際連合」のようにはなやかに行われることでしょう。大会は，「将来の記録保存」に議題が集中し，何千という記録保管者，歴史家，政府役人，マイクロフィルムをとる人，社会学者，その他数え切れない記録関係者が集まることでしょう。大会は1969年8月5日から8日までの4日間，ソルトレーク市ソルトパレスに70億円の費用をかけて建てられた超近代的な会議センターで行われる予定です。

大会は系図協会60年祭（75回記念）と並行して行われ，末日聖徒イエス・キリスト教会の片腕である系図協会が主催します。けれども大会を計画し，調整している各組織は系図協会という組織を越えた働きをしています。「私どもは世界中



リトルコットンウッド峡谷にあるグラナイト山系図記録庫入口

系図協会のマイクロフイルムで熱心に系図探求する聖徒



系図記録庫のマイクロフイルム保管庫

の系図記録に携わる職員の方々の御努力がこの大会に反映されることを期待しております」と系図協会副会長兼総支配人のセオドア M. バートン長老は語っています。大会は「貴重な記録の保存，マイクロフィルムの撮影と，保管に関して，全世界の人々の大きな協力をいただくこと」を目的としているとバートン長老は語っています。これらの記録はよく保護されないと，失なわれたり，破損されたり，焼却されるか，注意不足により変質するかもしれません。

記録の保存に関して系図協会の払っている努力は大変なものですが，その一つに，ソルトレーク市近郊のグラナイト山記録庫があります。大会の訪問者は，ソルトレーク市から南へ約 37km 下ったリトルコットンウッド峡谷にある記録庫で行われている作業を直接見学する機会に恵まれるでしょう。

この珍しい保存庫には，何百万ページという記録が保存されています。広汎なマイクロフィルムプログラムを通じて，原記録文書の写しは，全世界にわたっています。

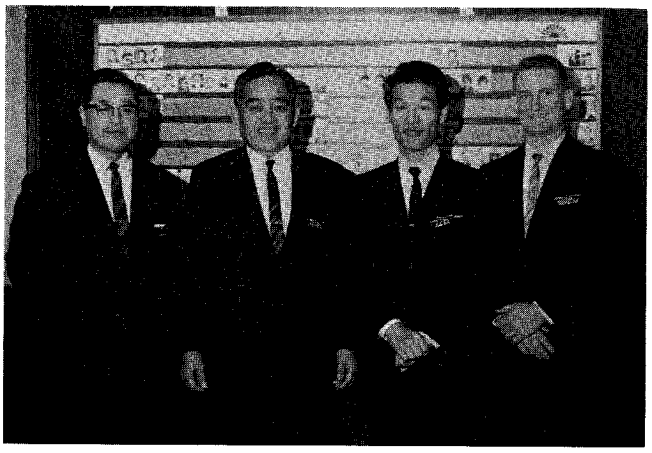
このマイクロフィルム収録計画は，かつてないほど活気のある広汎な系図記録プログラムで，系図協会の主な仕事になっています。巨大な系図記録をさらに豊富なものにするためマィクロフイルム撮影者は毎日，世界各地の記録を収録しています。記録には，不動産証書，証書，遺言記録，婚姻証書埋葬記録，教区記録，その他価値のある書簡類が含まれています。山中にある記録庫では，近代的な撮影装置により毎月50万近くの記録が収録されています。マイクロフィルムは，理想的な温度と湿度調節装置のもとで数百メートルに亘って堀られた巨大な記録庫に保存されています。

世界系図記録大会の計画主任であるボブ・R・ザブリスキー兄弟は，大会が近づくにつれて日毎に関心が募っていると報告しています。8月の大会に備えてレセプション，計画会，その他の会合に出席するために全世界から数百人の関係者がソルトレークに集まっているため，いやが上にも雰囲気が高まっているのです。来賓の中には，有名なオーストリアの系図家，カール・フレデリック・フォン・フランク氏の名も見られます。

著名な記録職員，歴史家，記録保管人たちが大会の特別会議に出席する予定です。数多くのマイクロフィルム会社，撮影装置会社，また，カメラ，電子計算機等の製造会社が自社の製品を出品する予定になっています。

伝道部長会メッセージ

日本沖縄伝道部



第一副伝道部長

鈴　木　正　三

すべての自然の草木にとって長い忍耐の時，忍従の時，冬が過ぎ去り，春と共に，一せいに活動を開始しました。春は自然だけでなく，この教会にとって記念すべき多くの事がらがあります。

1820年一人の少年は，彼の周囲に起こった多くの宗教論争の中で，いずれが正しいか，どの教会に入るべきか深く悩んでいた或日，ヤコブ書1章5節「あなたがたのうち，知恵に不足しているものがあれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。」を読んで深く感動しました。この少年つまりジョセフ・スミスはこのことについて，「どの聖句にもまさって，この時ほどこの言葉が私の心に真に力強く迫って来たことはない。それは私の心の底という底を大きな力で貫き通すような気がした。私はこの言葉を再三再四思いめぐらせて，もし誰か神よりの知恵を必要とするならば，正にそれは私であると知った。」と書いています。

1820年早春，一点の雲もない美しい朝，近くの森に入って，人のいないのを見すまして，ひざまずいて自分の心の願いを神に祈り始めました。彼はすぐに何ともいえぬ恐ろしい力にとらえられこのまま死んでしまうのかと思われましたが彼は自分をとらえたこの敵の力から何とぞ逃れしめたまえと，全力を振りしぼって神に祈りました。今にもこの恐ろしい力のために自分の身を捨てようかと思ったその瞬間，彼は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見，その光の柱は次第に下りて来て，光はついに彼の上にふりそそぎました。ジョセフ・スミスはこのことについて，「その光の柱が現われるや否や，私はわが身を縛った敵から救い出されたことに気がついた。そしてその光が私の上に留った時，私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有たもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい，他のお一人を指して『こはわが愛子なり，彼に聞け』と仰せられた。私が主に伺おうとした目的は，私が何れに加入すべきかを知るためにすべての教派の中で何れが正しいかを知ることであった。それで私はわれに返って言葉が出せるようになるや否や，私の真上で光に包まれて立ちたもう御方に，すべてこれらの教派の中で何れが正しいか，そして何れに加わるべきかを伺った。その御答えは汝はその何れにも加わるべからず，彼らことごとく誤れるを以てなりといいたもうた。」とジョセフ・スミスの著の中に書いています。私はこのことが真実であると良く知っています。この示現を通してジョセフ・スミスは，神がたしかに，人の形，骨肉の体をもち給い，父なる神とイエス・キリストとは別々の体をもち給うこと，人と話しをされること，感情をもち給うことなど数々の素晴らしい証詞をもつことが出来ました。これは当時の宗教家の人々，キリスト教派の人々にとって驚嘆すべきことでありました。サタンは彼の使命を良く知っていたので，あらゆる機会に，彼をほろぼそうとしてゆきました。最初の示現のとき，彼が示現を受けたことを知らせた後わずか14歳の少年に世の多くの人々を通して彼に迫害を加え，金版を手に入れたとき，その後カーセージで暴徒の銃弾にたおれるまで，サタンはあらゆる知恵をしぼってこの末の世のわざを止めようと働きました。しかし「この末の世にわが選びたる弟子たちの口より，すべての人々にいましめの声は及ばん。この末の世の弟子たちは進み行けど，一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ彼らに命じたればなり」教義と聖約（1：4～5）の聖句の通り，神の御業は進み1830年4月6日に正式に神意と神命によって，教会が組織されました。

この末の世に神の教会を設立すべく選ばれた予言者ジョセフ・スミスには，数々の予言者があらわれました。

モロナイ，バプテスマのヨハネ，ペテロ，ヤコブ，ヨハネなど各々父なる神の命をうけてジョセフ・スミスに現れ必要な導き，神権の鍵を与えました。12使徒の死後久しくとだえていた神権が再び取上げられることがないという約束の下に回復されたことは私たちにとって，素晴らしい祝福ではないでしょうか。

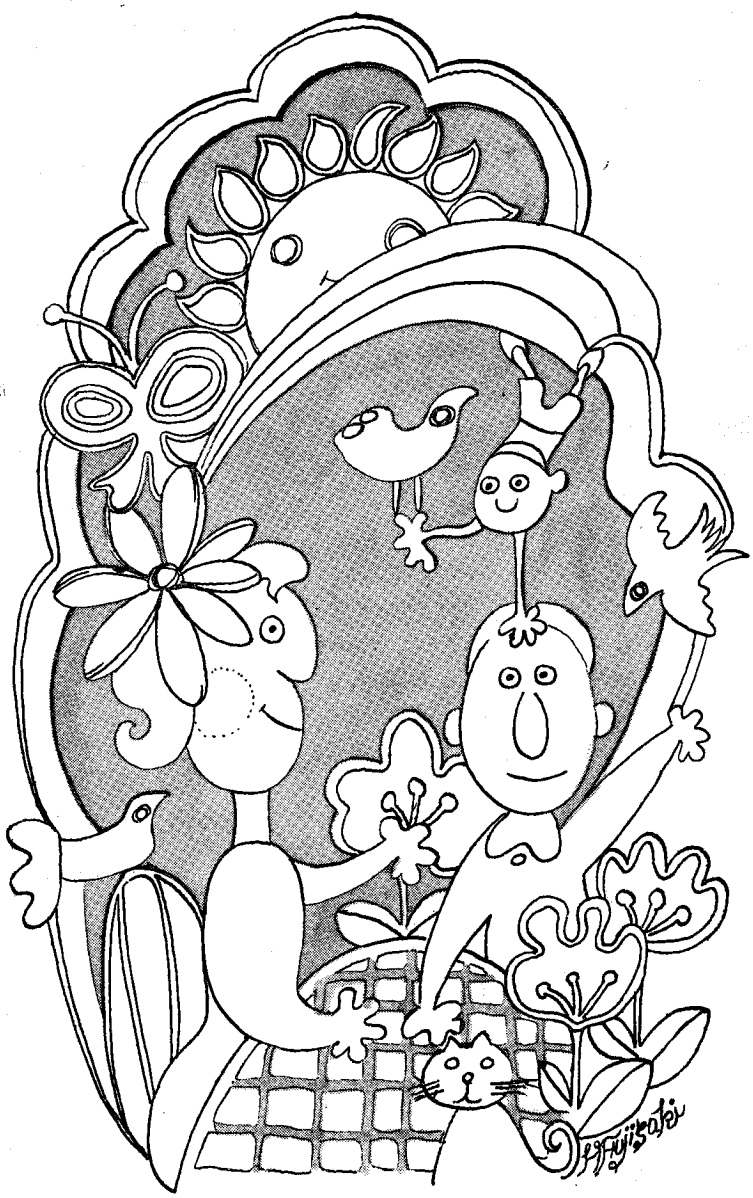
1836年4月3日カートランド神殿に，主イエス・キリストが親しくあらわれ給い，続いて，モーセ，エライヤス，エライジャが現われて夫々，イスラエル人の集合と，北の国より10支族を導き来る鍵，アブラハムの福音の神権の時代の鍵，マラキの予言の成就のため，末日の神権時代の鍵を渡しました。

これら数々の神権の鍵が代々の大管長によってうけつがれ，現在デビド・O・マッケイ大管長が持っておられることを証詞します。

4月6日はまた私達の救いの計画の中で，最も素晴らしい事，復活を記念する日であります。

ゲッセマネの園ですべての中で最も大いなる者といわれる神でさえも「痛苦のために身をふるわせ，あらゆる毛の孔より血を湧かせ」るほどの苦しみを味わい，更に十字架上での肉体の苦痛，死，などすべて肉体をもつ者の最高の苦痛をなめられて死にたまい，三日目の朝，人類が何人もなしえなかった死のとびらを打破って，復活されました。

この数々の行事の月を迎えて，この真実の教会に属していること人々の救いの為に働く機会のあることを心から感謝しています。常に聖典に親しみ，心から神に祈り，日常生活に福音をとり入れて日々の生活の中で証詞を強め，平和な喜びをうけながら，更に福音の証人として，紹介プログラム，フエローシップ活動を通して多くの人々の為に働きたいと思います。



新婚さん　こんにちは！

前略　お元気ですか。お幸せでしょうね。神さまはアダムに「人がひとりでいるのは良くない。彼のためにふさわしい助け手を造ろう」といわれ、また「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」といわれました。私はあなた方が伴侶を教会の会員のなかより見つけだし、支部長さんの司式によって結婚されたことを大変喜んでいます。同じ信仰を持つ者同志ですから、これからも神さまの教えに従って生活できますね。まずは幸先よい結婚のスタートを切りました。でも、これで満足しないで、天においても固く結ばれんために、権能をもつ人の手によって、永遠の結婚の儀式にあずかれるよう、そのときを待ち望み、よく準備して欲しいと願っています。幸いなことに、今年のみならず来年もつずけてハワイ神殿訪問が計画されています。みんなこの１～２年のうちにゆかれますか。

ところで、結婚そのものは人生の新しい段階への入口にしかすぎません。結婚が幸福、祝福につながるにはお互いの深い愛と犠牲が必要ですが、イエス・キリストの教えに従って生活しさえすれば、幸福な結婚への必要にしてかつ十分な条件が満されることになります。福音にたいして深い信仰と証詞をもち、教会を愛し、なかんずく、お互いに愛しあっていけば、現在のみならず永遠にわたってあなたがたの結婚は祝福されるにちがいありません。信仰と勤勉さによって保証される大いなる祝福をあなたがた自らが手にされるように祈ってやみません。

いつか、あなた方のご家庭を訪問させていただく機会があればと願っています。きっと玄関に入っただけで、「やっぱり、モルモンの家庭だわ」と思うことでしょう。

桜もそろそろ満開！若旦那さん、結婚してからも二人だけのデイトは大切ですよ。

それでは、どうぞお二人ともお元気で。

伝道部のお母さんより

岡崎智恵子

＊＊プレゼント＊＊

＊「幸せに満ちた結婚生活」を、もし誰かがプレゼントして下さったら最高でしょうね。そのものズバリはさし上げられませんが、そのタネをここにプレゼントいたしましょう。

立派に花を咲かせて下さい。

＊もし家庭に失敗するようであれば、いかなることに成功しようとも、その失敗を埋め合わせることはできない。（マッケイ大管長）

＊結婚後もコートシップを続けることは、相互に忠実であることの次に、幸福な結婚生活にとって大切である。結婚式は永遠のコートシップへの始まりであるにもかかわらず、あまりに多くの夫婦はその終りだと考えてしまう。

家庭生活にともなう種々の重荷を実際に負っている時に、やさしい言葉をかけられたり、親切にされると結婚前の時よりも、もっとうれしく感じることを忘れないでいたい。夫または妻が結婚してからの苦しい時にこそ「ありがとう」「すみません」「もしよろしければ」という言葉を使えば、結婚に踏み切らせた二人の愛を更に強くするであろう。愛も身体と同じく、食物を与えなければ餓死する事を覚えてほしい。親切、思いやりは愛にとっての食物である。結婚指輪を交換したからといって、男性における残酷さ、無遠慮さ、また女性における身だしなみの悪さ、感情的言動などが許されたわけではない。（1956年大会の話より、マッケイ大管長）

＊お互いのよいところを、何らかの形で毎日ほめることによって、家庭は大変気持ちよいところとなり、安定したものとなる。妻の容姿、髪の結い方、料理、家事、エプロンなどをほめることによって、ある場合に沈み込んでいる彼女を、素晴しく元気づけるものである。（ブラウン副管長）

＊イギリスでは、母親が子供にお菓子を与える時「プリーズ」と子供が言わないと、それを言うまでお菓子を与えない。与えた後では必ず「サンキュー」と言わせる。「この二つの言葉をどこの家庭でも、子供が小さいうちから厳しく教え込むんです。」と二才の女の子を持つ若い母親がこう説明した。「親に何かしてもらうのはあたりまえだと子供に思わせずに、人から何かしてもらったとき、サンキューと言わずにいられないようにしつけているのです。」（３月５日某日刊紙より）

＊私は大家族をもつ父である。毎日の忙しい仕事を終えて、疲れ切って家に帰る。家に入るまえに私は立ち止まって、家の中でどのようなことが起っているのか考えてみる。誰かが皿を割ったかも知れない。カーペットの掃除機はこわれているかも知れない。子供の誰かが腕を折ったかも知れない。近所の人が電話で「お宅の坊やはうちの子に乱暴した」と怒鳴っているかも知れない。子供たちは、ジャムなどのついた手もかまわずに、かまって欲しくって飛びついて来て、きょうあったことについて、いっせいにしゃべり出すかも知れない。そこで私は立ち止ってお祈りをする。「主よ、私が家に帰ることによって、私の愛する者たちに明るく気持ちよい夕べを迎えさせられますよう、またこの家を強め、お互いにバラバラになるのではなく、更に結びつきを強められますよう。どうぞ私の声がおだやかであるように、彼らの父として友として、私自身が自分に対して、信頼と尊敬をいただけますように。そして、家族の者に祝福をもたらすべく、よき影響を与えられますよう助けて下さい。
（1966年度「家庭の夕べ」のテキスト 364ページ）

＊什分の一を納めること、収入の範囲内で生活し、借金をしないこと。いつも教会での責任を与えられたら、引き受け活発であること、これらは幸福な結婚生活に欠かせないことである。
（岡崎伝道部長）

＊結婚した二人は職業上の仕事、教会の仕事、家事、育児などそれぞれに追われて、二人だけで過す機会が少なくなる。だが、少なくとも月に一度か二度は、子供をあずけてでも二人だけの時間を、共通の趣味、外での食事などで過ごすべきである。
（小松前伝道部長）

＊「汝らまごころをもって妻を愛し、これと結び合うべし、その他の者に愛着することなかれ。」（教義と聖約42：22）本当に妻を愛しているのであれば、自分のこと以上に、妻の福祉について考えるであろう。彼女自身が進歩する機会にあずかれるよう、気をつけているだろうか。あなたと同じく、彼女も神の与え給うた完成への願いを持っている。……（中略）だが、妻があなたに対して、もっと期待しているものは、何であるか知っているだろうか。それは、夫とともに時間を過ごすことであり、夫の思いやり、そしてあなたとの会話なのだ。では、一番いやがるものは何であろうか。それは、あなたの利己心とむっつり沈黙である。夫婦はたえず心が通じ合う技術を高めるべきである。（1968年10月大会の話、Ｒ．Ｍ．ネルソン ステーキ部長）

＊夫は妻が一日の終りに、消耗し尽して神経質になって疲れているときには、家の中がきちんとしていなくても、そこはしんしゃくすべきである。同様に、妻は夫が仕事上で成功しなかったときでも、成功を確信させるように夫の気持ちを引き立てるべく、細やかな感情を持つべきである。（神権とあなた 141ページ）

＊妻たる者よ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。
（エペソ書５：22）

＊＊伝道部便り＊＊

＊柳井支部、教会堂建設の鍬入れ式１月６日に挙行。現在11人のチャーチ・ビルダーが働いている。「これは柳井のことである」と傍観するのではなく、精神的のみならず、作業手袋一組でもよいから、物質的にも伝道部の会員全体が応援して欲しい、と伝道部長は要請している。特に長老定員会の御出馬に期待する。

＊1970年の神殿訪問予定は、７月10日～７月20日と決まりました。

＊1970年のユースカンファレンスは、日本伝道部と合同で、関西の地で行なわれる。日程は８月６日～８月９日。（８月10日には、ユースカンファレンスプログラムとは別に、万国博覧会に行く予定。）

＊新しく伝道部役員が召された。アロン神権成人ならびに青少年グループ主事に藤崎 尚、系図アドバイサーに周藤珠彦、日曜学校会長に山邑陽一兄弟、プライマリー会長に西昭代姉妹。

＊この２ページは、日本沖縄伝道部に与えられたページです。神崎良太郎、山川悦申、藤崎　尚兄弟、竹田洋子姉妹が編集にあたっています。有意義で楽しいページにしたいと願っています。ご意見を伝道部宛、およせ下さい。

新伝道地だより

盛岡の聖徒

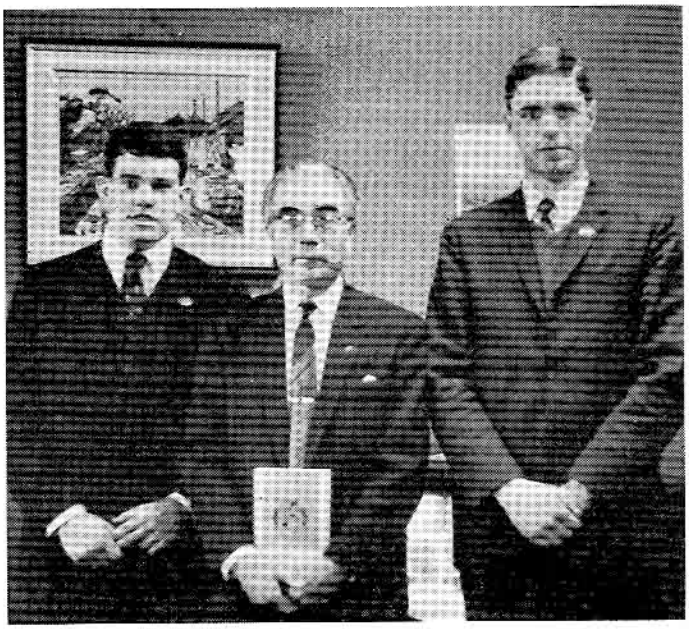
2月22日の午後，上京した木下八千代姉妹は，伝道部長をはじめ多くの兄弟姉妹に見守られ，バプテスマを受け，福音の喜びに感涙した。昨年末，最初の宣教師として盛岡へ着いた2人の宣教師の手には，ニュージランドからの一枚の紹介カードがあった。"Y. Kinoshita"とのみ記されており，住所も性別もわからなかった。電話帳を調べ，宣教師はYではじまる5人の木下を見出した。

突然おとづれた見知らぬ2人の外人に驚いた木下姉妹は，彼らの行動にひかれ，福音を学び，証詞を得，あす帰国しようとするその宣教師アレン長老からバプテスマを受けた。

木下姉妹は61歳になられ，盛岡では美容研究所をはじめ，数多くの活動をなさっている。

写真上　木下八千代姉妹と伝道するアレン長老ハバセン長老
写真左　樋口教授と宣教師岩手大学へモルモン経を贈る

写真左下　盛岡市長工藤氏にモルモン経を贈る
写真右下　NHK佐藤氏に家庭の夕べを贈る



一般大会でお話する子供代表柳沢兄弟

北海道大会

3月14，15日，札幌支部にて，北海道地方部大会が開かれた。長い間地方部長として，その職を果された柳沢俊雄兄弟に，深く感謝の意を表わします。新らしく，この職につかれる鮫島兄弟をはじめ，役員に任命された兄弟を紹介します。

北海道地方部長会変更

地方部長	鮫島邦彦兄弟
第一副地方部長	西島吉春兄弟
第二副地方部長	高杉保夫兄弟
書記	泉谷巌兄弟

地方部評議員変更

地方部評議員	横山正兄弟
〃	本間広兄弟
地方部評議員	新井一夫兄弟
〃	砂川国男兄弟

第七長老定員会変更

会長	柳沢俊雄兄弟
第一副会長	潟沼誠二兄弟
第二副会長	大田原雅稔兄弟

支部長会変更　札幌支部

支部長	柴田修男兄弟
第一副支部長	平野勝也兄弟
第二副支部長	志田勝兄弟
書記	倉見光男兄弟
書記補	神野房公兄弟

子供日曜学校コーラス

ビルス伝道部長

めったに考えない律法

リチャード・L・エバンズ

自由，法，不法，あるいは何が合法か，道徳的か，許容出来るか否かを考えるに，こうした問題は時として非常に複雑に見える。法案審議の果てしなく長い手続き，答弁，論争を見る時，何かもっと簡明なもの，かつて読んだことはあってもめったに耳にしない珍しいもの，十戒のようなものの必要性を感じる。複雑な現代生活に対応するには十分でないかも知れないが，十戒は基本的原則を示してくれる。「主はシナイ山の頂に下られた。そして主がモーセを山の頂に召されたので，モーセは登った。主はモーセに言われた。

『あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。

あなたは自分のために，刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。

安息日を覚えて，これを聖とせよ。

あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。

あなたは殺してはならない。

あなたは姦淫してはならない。

あなたは盗んではならない。

あなたは隣人について，偽証してはならない。

あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻，しもべ，はしため，牛，ろば，またすべて隣人のものをむさぼってはならない。』

モーセはきて，主のすべての言葉と，すべてのおきてとを民に告げた。民はみな同音に答えた。『わたしたちは主の仰せられた言葉を皆，行ないます。』モーセは民に言った，『恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため，……あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである。……あなたがたは，わたしが天からあなたがたと語るのを見た』」1

これらの原則が廃止されたとはどこにも書かれていない。我々の知る限りにおいて，かえって追加されている。律法に反論し，これを弱め，都合よく解釈しようとするあらゆる企てや試みがあったとしても，十戒は神より与えられた戒めであって，神の他の戒めと共に，我々が問題を解決し，心痛をいやし，暴力を止めさせ，罪を一掃し，あるいは途方に暮れた人々の生活の悲しみを和らげようとする際の確固たる基準を与えてくれる。十戒は道であり，神よりの勧告である。

1．出エジプト記19～20章参照。

聖徒の道
1969年4月20日発行
振替口座　東京76226番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話(442)7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号「トウキョウ」マツジツ

聖徒の道
昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六九年四月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十三巻第四号